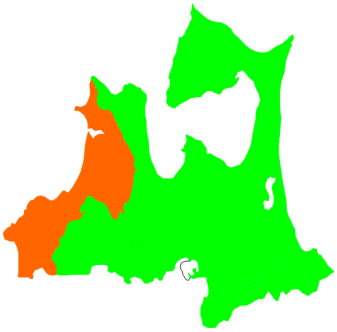
令和６年度



西北地域
普及指導活動のまとめ

令和７年３月

西北地域県民局地域農林水産部

表紙の写真

果樹 モモシンクイガ等適正防除 講習会（5/21）	農産加工 漬物の作り方を学ぶ 「なかどまりラボ」（11/26）
水稲 育苗講習会（4/23）	若手農業者育成 先輩農業者ほ場視察　（7/17）
地域計画 地域計画策定に向けた集落座談会 （五所川原市（11/22））	野菜 トレーニングファーム ブロッコリー定植作業（4/15）

目　　次

Ⅰ　普及指導活動の体制
令和６年度 西北地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室・分室活動体制　1

Ⅱ　普及指導活動の主な成果
1　重点普及指導計画
（1）良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産　2
（2）稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進　3
（3）中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大　4
（4）交信撹乱剤を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化　5
（5）持続可能で活力ある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成　6
2　一般普及指導計画
（1）気象変動に対応した基本技術の励行による大豆の品質向上と安定生産　7
（2）積算温度を利用した小玉すいかの収穫適期の把握　7
（3）花きの高品質安定生産の推進と産地の強化　8
（4）若手農業者の育成確保　8
（5）担い手の経営管理能力向上　9
（6）魅力ある農業経営に向けた家族経営協定の締結推進　9
（7）起業活動に取り組む農山漁村女性の育成と確保　10
（8）労働力確保対策の推進による生産体制の整備　10
（9）農地中間管理事業等の活用による担い手への農地集積・集約化　11
3　大雪被害対応
（1）背景　12
（2）被災農家への営農指導　12
（3）経営相談窓口の運用　12

Ⅲ　情報の発行状況
1　みどりの通信　13
2　ホームページ　14

Ⅳ　集団・組織の活動状況
1　農業経営士・青年農業士（西北五、つがる市、鰺ヶ沢）　15
2　西北地域ＶｉＣ・ウーマンの会　18
3　生活改善・生活研究グループ　20
4　農村青少年クラブ　22
5　若手女性組織（ＫＯＳ(きづくりオリジナルスター)）　23
6　西北津軽産直ネットワーク協議会　24
7　津軽米づくりネットワーク　26

Ⅴ　気象経過と農作物の生育状況
１　気象経過　29
２　水　稲　30
３　大　豆　32
４　小　麦　34
５　野　菜　36
６　りんご　40
７　ぶどう（スチューベン）　42
８　花　き　44

Ⅵ　表彰・認定
１　表彰事業受賞者
（１）農林水産祭「内閣総理大臣賞」　46
（２）あおもりの旨い米グランプリ　47
２　新規認定者
（１）農業経営士・青年農業士認定　48
（２）ＶｉＣ・ウーマン認定　49

Ⅶ　その他の活動
１　物価高騰対応「スマート農業機械」導入促進事業　50
２　農林水産関連物価高騰等対策事業　50

Ⅷ　参考資料
１　西北地域農業の概要　51
２　作目別の生産の状況
（１）水稲　54
（２）畑作物　54
（３）野菜　55
（４）果樹　54
（５）花き　56
（６）畜産　57
（７）水稲・大豆・小麦の採種　58
３　西北地域農林業主要指標　59

Ⅰ　普及指導活動の体制（令和６年度）

農業普及振興室長　　對馬　和明
農業普及振興室分室長　久保田　稔

農業普及振興室（室長含む）	３班	２２名
農業普及振興室分室（分室長含む）	２班	９名
合　　計	５班	３１名

農業普及振興室	企画班 ６名	総括主幹(副室長)長尾　博美	（企画班の総括、普及費の予算管理、物価高騰対策事業等）
		主　　幹　岩﨑　和美	（地域農業経営基盤強化促進計画、農地中間管理事業等）
		主　　幹　下山ひろみ	（農地利用効率化等支援交付金、農業構造改善事業等）
		主幹専門員　齋藤　　力	（特別栽培､みどりの食料システム戦略等）
		主　　査　齋藤　聡子	（環境保全型農業直接支払交付金､鳥獣被害防止､ＧＡＰ等）
		主　　事　永野　千陽	（農福連携、食育推進、食品表示等）
	地域第１班 （五所川原市・中泊町） ９名	総括主幹(副室長)山田　　実	（地域第１班の総括、西北型水田農業定着加速化事業等）
		総括主幹　小松ゆり子	（農山漁村女性リーダー育成、農産加工等）
		主　　幹　白石　一志	（認定農業者制度、農業制度資金、経営等）
		主　　幹　笠原　　均	（あおもり型農村ＲＭＯ、集落営農、農業士会等）
		主　　幹　佐藤　祐子	（野菜、西北型水田農業定着加速化事業等）
		主　　幹　小野　泰一	（水稲、「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導等）
		主　　査　信平　華寿	（花き、４Ｈクラブ等）
		技　　師　乙部　　基	（果樹、農作物生産情報等）
		技　　師　久保田有紀	（農泊、農村女性の担い手育成等）
	地域第２班 （板柳町・鶴田町） ６名	総括主幹(副室長)中村　　諭	（地域第２班の総括､農作物生育状況調査等）
		総括主幹　長内　忠仁	（新規就農者育成、青年農業者研修等）
		主　　幹　清藤　香理	（産直ネットワーク、家族経営協定等）
		主　　幹　白川真美子	（果樹、シャインマスカット産地育成等）
		主　　査　福沢　琢磨	（畑作、採種ほ生産物検査等）
		技　　師　福田　詩乃	（野菜・花き、病害虫防除、植防・施肥合等）
同分室	地域第１班 （つがる市） ４名	総括主幹(副室長)若宮　通子	（分室地域第１班の総括、つがる市農業士会等）
		主　　幹　三﨑さおり	（土地利用型作物、水稲採種ほ等）
		主幹専門員　蛸島　　基	（野菜、経営、新規就農等）
		技　　師　工藤　優羅	（農作業安全、農薬適正使用等）
	地域第２班 （鰺ヶ沢町・深浦町） ４名	総括主幹(副室長)八島　敏行	（分室地域第２班の総括、鰺ヶ沢地区指導農業士会等）
		主幹専門員　長谷川　修	（野菜・花き、情報セキュリティ等）
		技　　師　山田紗矢香	（果樹、病害虫防除、環境にやさしい農業等）
		技　　師　福士　苑華	（土地利用型作物、大豆・小麦採種ほ、４Ｈクラブ等）

Ⅱ　普及指導活動の主な成果

１　重点普及指導計画

（１）良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産

【対象名】「はれわたり」作付者(378 人)、管内「青天の霹靂」作付者
（うち、新規作付者（３人）及び前年産出荷基準未達者（３人））

西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核に、「はれわたり」の良食味・安定生産及び「青天の霹靂」のブランド維持のため、生産指導に取り組んだ。

【背景・課題】

「はれわたり」は、栽培のポイントが浸透しつつあるが、良食味・高品質米安定生産のために、関係機関と連携して栽培マニュアルに沿った栽培管理を広く指導する必要がある。

また、県産ブランド米「青天の霹靂」は、ブランド維持のために新規作付者や前年出荷基準未達者に対して、関係機関と連携しながら継続して重点的に指導を行う必要がある。

育苗講習会（4/23）

【普及指導活動の内容】

ア　西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（ＰＴ）において、指導拠点ほの設置、夏季現地巡回の開催により「衛星ナビ」の活用等について関係機関と意識統一を図った。

イ　「はれわたり」生産者に対して、高温時の水管理について重点的に指導したほか、「はれナビ」の周知と適期収穫の徹底を呼びかけた。

ウ　「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、集荷団体の指導員と連携しながら個別指導を行った。

追肥講習会（7/4）

【成果】

「はれわたり」の管内ＪＡ一等米比率は 98%以上で目標を達成した。

「青天の霹靂」新規作付者及び前年基準未達者の出荷基準達成者の合格者は５人であった。

ＰＴ夏季現地巡回（8/27）

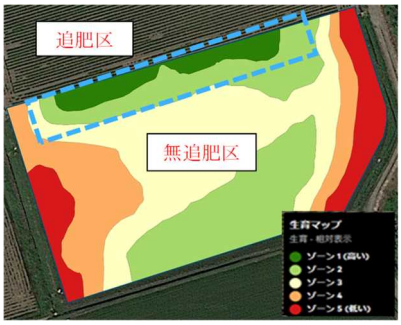
（２）稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

【対象名】津軽米づくりネットワーク(49 人)、スマート農機導入経営体（368 経営体）
五所川原広域水田フル活用推進協議会（27 人）

収量・品質の向上や生産効率を追求するスマート農業技術の普及を図るため、実証活動や情報提供をするとともに、技術を使いこなす多様な人財の育成に取り組んだ。

【背景・課題】

水田農業経営の大規模化が進行する中で、労働力不足等の課題に対応できるよう、令和元年からスマート農業技術の普及を推進してきた結果、スマート農機を導入する経営体が大幅に増加した。しかし、その機能を十分に活かし切れていないため、効果的な活用によるメリットの追求と活用できる人財の育成が求められている。



営農支援システムによる
生育マップ

【普及指導活動の内容】

ア　スマート農機導入経営体を対象に、スマート農機の利用実態及び利用拡大に関する意向調査を実施し、その結果を関係機関、生産者で構成する西北型水田農業推進協議会に提供し、情報を共有した。

イ　営農支援システムの実効性を示すための実証ほを設置し、得られたデータと実測値との比較検証を行った。

ウ　労働力不足に対応し、多様なオペレーターを養成するため、研修会（6/28）を開催し、自動操舵トラクターの設定・操作方法と、実際に大豆のは種・中耕作業を実習して技術の習得を図った。

エ　西北地域スマート農業研修会（2/10、91 人）を開催し、営農支援システムの利用方法について講演を行い、システムの機能や利用体系、活用事例を紹介した。

オペレーター養成研修の様子
(6/28)

自動操舵トラクター操作実習
(6/28)

【成果】

ア　スマート農機の利用実態と利用拡大に向けた意向調査を実施（回答 186 戸）し、直進作業など作業効率を重視した利用実態と自作での利用拡大意向が多いことがわかった。

イ　実証ほによりデータ活用の可能性が見えてきたため、技術の確立・普及に向け、引き続き実証を積み重ねる。

ウ　後継者、女性農業者、新規就農者など機械作業を普段していない人（７人）を対象にオペレーター養成研修を実施し、精度の高い作業が実施できることを実感させ、自信を持たせることができた。

エ　スマート農業研修会で、営農支援システムを活用することによって、生産方式の改善や経営管理の効率化につながることへの理解が深まった。

スマート農業研修会（2/10）

（３）中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

【対象名】中泊町の中小規模稲作経営体(101 戸)、新規就農者

基盤整備事業でほ場整備が行われている中泊町の稲作経営の農業者を対象に、野菜栽培技術を実践しながら学ぶトレーニングファームを設置し、ここを拠点に現地情報交換会や省力化技術・鳥獣害対策の実演会を行い、複合経営の普及拡大に取り組んだ。

【背景・課題】

中泊町では令和５年度から中山間地域の３地区で農地中間管理機構関連農地整備事業の工事が始まり、ほ場整備が部分的に完成したことから、米価下落時のリスク管理や収益力向上の観点から野菜導入にチャレンジする動きがでてきた。しかし野菜栽培への技術的な不安があることから、栽培技術を実践しながら学ぶ仕組みや相談体制を整えるとともに、省力化や鳥獣害対策等の課題を検討し、普及拡大を支援していく必要がある。

トレーニングファーム
ブロッコリー定植作業
(4/15)

【普及指導活動の内容】

ア　栽培技術を実践しながら学ぶ「トレーニングファーム」を設置（中泊町薄市地区）し、ブロッコリーととうもろこしを栽培した。栽培経験のある実践農家がトレーナーとなり、栽培管理の指導や個別相談に応じ、栽培方法や出荷販売に係る手順を学び技術習得を図ることができた。

イ　トレーニングファームで、３つの地区の農業者や関係機関で現地情報交換会(6/14、7/31、延べ 49 人）を開催し、栽培状況や作業体系について検討した。また、ブロッコリーの追肥作業の省力化につながる「施肥同時中耕培土機実演会」（5/23、38 人)やとうもろこしの「電気柵設置実演会」(7/31、23 人）を開催し、効果を検討した。

ウ　３地区情報交換会(12/17、21 人）を開催し、先行して栽培に取り組んだ薄市地区での取組結果と課題について、３地区の農業者と関係機関と共有し、今後の作付計画や目指す方向性を検討した。

ブロッコリー施肥同時
中耕培土機実演会（5/23）

電気柵設置実演会（7/31）

【成果】

中泊町の野菜導入経営体数が 14 戸から 16 戸に増加した。

３地区の高収益野菜導入面積が現状０ha から 0.78ha に増加した。

３地区情報交換会（12/17）

（４）交信撹乱剤を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化

【対象名】管内のりんご共同防除組織及び管内りんご生産者

管内のりんご生産者（りんご共同防除組織）を対象に、交信撹乱剤設置実演会、交信撹乱剤の特性や正しい設置方法を周知する講習会等を実施することで、設置面積の拡大及びモモシンクイガ等適正防除の普及拡大に取り組んだ。

【背景・課題】

主要な輸出先の台湾に輸出された本県産りんご生果実からモモシンクイガが見つかった場合、即時輸出停止となり、国内の需給にも大きく影響する懸念があることから、完璧な防除が求められている。加えて、近年は、温暖化により慣行防除を行っている園地でもモモシンクイガの被害果が増加している。このような状況から、モモシンクイガ等重要害虫を適正に防除するため、令和６年青森県りんご病害虫防除暦から交信撹乱剤が基準薬剤となり、その効果や正しい設置方法等を周知し、普及拡大する必要がある。

交信撹乱剤設置実演会
(5/9)

【普及指導活動の内容】

ア　管内５市町ごとに交信撹乱剤を設置した園地を１園地ずつ正しい設置方法を周知する展示ほとして設置（４～９月）し、設置方法の展示を行うとともに、交信撹乱効果及び被害状況を確認するため、調査研究に取り組んだ。

イ　交信撹乱剤の設置実演会（６回、延べ 387 人）を開催し、正しい設置方法について周知した。

ウ　各共防連対象の防除講習会（26 回、延べ 1,408 人）において、モモシンクイガ等重要害虫の発生状況や交信撹乱剤を活用した適正防除について周知した。

エ　調査研究課題として実証した交信撹乱剤の効果について、結果を取りまとめるとともに、交信撹乱剤設置の継続・拡大による令和７年産りんご適正防除のため、りんごの安定生産研修会(1/23)や各共防連の防除暦説明会等（10 回予定、延べ約 450 人）で周知した。

モモシンクイガ等適正防除
講習会（5/21）

りんごの安定生産研修会
(1/23)

【成果】

令和６年における西北管内りんご園地の交信撹乱剤設置面積は、63ha から 1,269ha に増加した。

交信撹乱剤設置による防除効果を実証した。

（５）持続可能で活力のある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成

【対象名】あおもり型農村ＲＭＯ（Region Management Organization:地域運営組織）
を目指す西北管内集落及び地域経営体

各市町の担い手育成総合支援協議会等と連携して「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成に取り組むとともに、五所川原市三好地区の地域資源の発掘・活用、地域コミュニティの再生強化に向け「三好をあじあう会」の支援に取り組んだ。

【背景・課題】

農村地域は人口減少と高齢化が進行しており、コミュニティを維持するため、地域経営体や地域の住民が連携し、人口減少に伴う地域課題解決に向けて活動する地域運営組織等の育成が必要である。

令和３年度から育成してきた地域運営組織「三好をあじあう会（五所川原市三好地区）」は、活動を主体的に進められるようになってきており、今後の活動の継続、発展に向けて支援を続け、さらに他地区への面的広がりを促す必要がある。

【普及指導活動の内容】

ア　五所川原市、板柳町及び中泊町の担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成や、地域資源の発掘・活用、担い手育成等に対する取組を支援した。

イ　五所川原市の地域経営体一般社団法人七和まちづくりネットワークが地域資源の高付加価値化を目指し、自然乾燥米の真空パック商品の開発を手がけ、試作品をお披露目した（2/6）。また七和地区のファン獲得に向け、七和収穫感謝祭を市全体に広報した結果、祭には多くの市民が集い、その約８割が地区外からであった（11/23）。

味噌玉で七和地区外のファンを獲得

ウ　鰺ヶ沢町の地域経営体(株)SATO FARMが、りんご農家の暮らしを描いたオリジナルの絵本を作成し、それをもとに愛媛県で相互の交流を図った（2/7～8）。

エ　地域運営組織「三好をあじあう会」が、「三好ザリガニ釣り大会（9/1）」、南部町で行われたあおもり鍋自慢において昨年度開発した三好鍋を販売（10/20）し、さらに三好地区内で定期販売にこぎ着けた（12/6～）。

これらの地域経営体に対して、運営にかかる技術的支援、経営基盤強化に向けた指導を行った。

三好鍋定期販売開始をＡＴＶが中継

【成果】

普及指導活動により、モデル集落の交流（五所川原地域担い手協）、米粉の活用（中泊地域担い手協）、新規就農者の育成（板柳町担い手協）等が進んだ。また一般社団法人七和まちづくりネットワークは、五所川原市内に販路を広げ、(株)SATO FARMは、りんごの皮に付加価値を生む「新たな絵入りりんご」の技術を開発した。

２　一般普及指導計画

（１）気象変動に対応した基本技術の励行による大豆の品質向上と安定生産

水田転作による大豆の作付面積が増加傾向にあるが、気象変動による生育のムラが大きく、品質の向上と安定生産が課題となっている。

そこで、雑草対策や排水対策、病害虫防除等の栽培管理について、機械の実演や栽培講習会等により技術の普及を図った。

また、生育・収量の平準化を図るため、リモートセンシング技術を活用した生育量の把握とデータに基づく施肥を実施する展示ほを設置し、その効果を確認した。

中耕・除草機の実演（7/18）

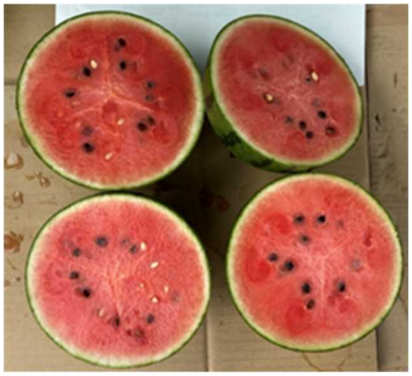
栽培講習会（7/19）
（ＪＡごしょつがる大豆部会長からのほ場説明）

（２）積算温度を利用した小玉すいかの収穫適期の把握

管内の小玉すいかは、着果してからの日数で収穫適期を予測しているが、高温年は生育が早まることで日数での収穫適期の把握が難しくなる。

そこで、着果してから収穫までの積算温度を推測し、積算温度を利用した適期収穫が可能かを検討した結果、着果してから収穫までに要する積算温度が、推測値に近い値であったことから、積算温度を利用した適期収穫は可能と推測された。

また、新規就農者を含む若手生産者が多く、収穫判断についての知識定着を促すため、収穫日決定までの判定基準を作成し、栽培講習会で情報提供した。



果実調査

栽培講習会（12/10）

（３）花きの高品質安定生産の推進と産地の強化

輪ギクは、現地検討会を２回実施したほか、生育観測ほを２ヵ所設置し、随時生育状況の把握に努め、適正な温度や肥培管理を指導した。また、７月上旬から生産者２人のほ場にオオタバコガフェロモントラップを設置し、調査結果をもとに適期防除を呼びかけた。

トルコギキョウは、生産者の栽培ほ場等での講習会及びＪＡの出荷目揃会において、定植後の管理や日持ち延長に向けた薬剤処理方法などを指導した。また、秋出荷の品質向上を目的とした実証ほを設置し、調査結果を生産者に情報提供した。

収穫は６月下旬から始まり、10 月末まで継続的に県内外へ出荷された。

出荷量は前年を下回ったものの、販売単価及び販売金額は前年度を上回った。

トルコギキョウ講習会
(6/21)

輪ギク現地検討会
(6/27)

トルコギキョウ出荷目揃会
(7/25)

（４）若手農業者の育成確保

若手農業者の育成に向け、就農希望者に対する就農相談や青年等就農計画及び資金計画書の作成を支援したほか、市町担当と連携したフォローアップでは、農業次世代人材投資資金や経営開始資金の交付対象者のほ場巡回と面談により対象者の状況を確認し、必要に応じて助言を行った。

今年度は延べ 102 人の就農希望者及び新規就農者に対し、相談対応や計画作成支援を行い、新たに 17 人（うち夫婦３組）が国の政策支援を受けることができた。

また、今年度のニューファーマーズカレッジには延べ 32 人（12 月末）が参加し、視察研修や農作業安全、農薬の正しい使い方、複式簿記等の講義により、農業経営の知識習得と参加者間の交流を図った。

座学研修（6/16）

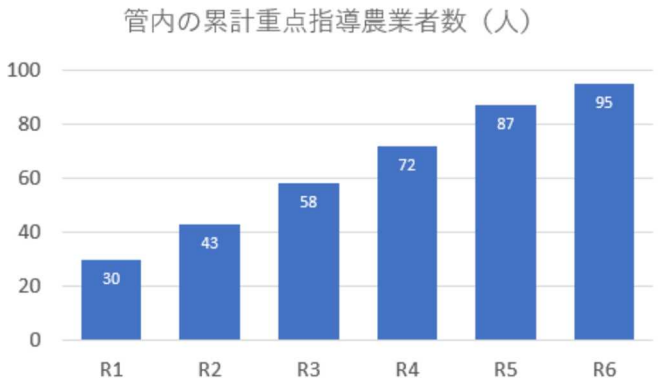
先輩農業者ほ場視察（7/17）

農作業安全講習（12/5）

（５）担い手の経営管理能力向上

新規に選定した重点指導農業者は８経営体で、管内の累計重点指導農業者数は 95 経営体となった。

農業経営相談所の専門家による支援を受けた農業者は、２月末までに 19 経営体（新規 8、継続 11）、回数は延べ 19 回となった。内容は、法人化、事業継承、事業計画の達成等であった。



専門家による指導（12/2）

（６）魅力ある農業経営に向けた家族経営協定の締結推進

農業に従事する家族が意欲とやりがいを持って経営に参画し、魅力ある農業経営を目指す「家族経営協定」を進めるため、支援体制の整備を図る目的で、管内市町ごとに農業委員会及び関係課との担当者会議を実施した。

その結果、締結希望農家に対し、農業委員会等と連携して、経営目標や役割分担、就業規則、経営移譲に関する取り決め等を明確化した協定書の作成支援を行い、新規に４戸（五所川原市１戸、つがる市２戸、深浦町１戸）の農家が家族経営協定を締結した。

調印式の写真（つがる市）
夫婦で移住しメロン栽培に取り組む（6/4）

調印式で抱負を語る締結者（深浦町）
夫婦の協力が大事（7/8）

（７）起業活動に取り組む農山漁村女性の育成と確保

農山漁村女性の活躍推進と地域の活性化を図るため、農林水産物の加工、直売、都市との交流等の起業活動に取り組む女性農漁業者を支援した。

食品衛生法の改正による漬物の営業許可制度を受けて、漬物製造販売を行う「なかどまりラボ」が新たに設立され、地域の味を引き継ぐため漬物の試作費や調理器具類の購入費等を補助した。結果、５種類の漬物が継承され、産直施設において販売された。

また、加工品の保存技術や先輩起業家の事例を学ぶ基礎講座と、農山漁村での滞在を楽しむ「農泊」をビジネスとして継続していくための考え方を学ぶステップアップ講座を開催して、起業活動の発展や次世代を担う女性起業家の育成を図った。

漬物の作り方を学ぶ
「なかどまりラボ」(11/26)

加工をテーマとした基礎講座
(12/3)

（８）労働力確保対策の推進による生産体制の整備

農福連携の情報交換と取組推進のため、西北地域農福連携情報連絡会を現地で１回、書面で１回開催した。

また、農協が事業主体となり、農協部会員が農福連携に取り組む「チャレンジ農福」を管内２農協が実施し、すいかのマルチ除去や大豆ほ場の除草等 10 件の作業について障がい者が従事し、その取組を広報で周知した。

情報連絡会（9/6）

チャレンジ農福　大豆除草

（９）農地中間管理事業等の活用による担い手への農地集積・集約化

農地の担い手への集積は進んでいるものの、農作業の効率を上げ生産コストの低減を図るためには、農地の分散の解消（集約化）が必要となっている。

そこで、深浦町（岩崎・久田・正道尻地区）を対象に、農地中間管理機構を通じた農地貸借等により農地集積・集約化に取り組む地域に対して交付される機構集積協力金の申請に向けた相談対応や事業計画書作成支援等を行った。

また、市町が令和６年度末までに策定する「地域計画」について、地域農林水産部及び農地中間管理機構職員を構成員とする支援チームを編成し、集落座談会等の円滑な進行を支援した。

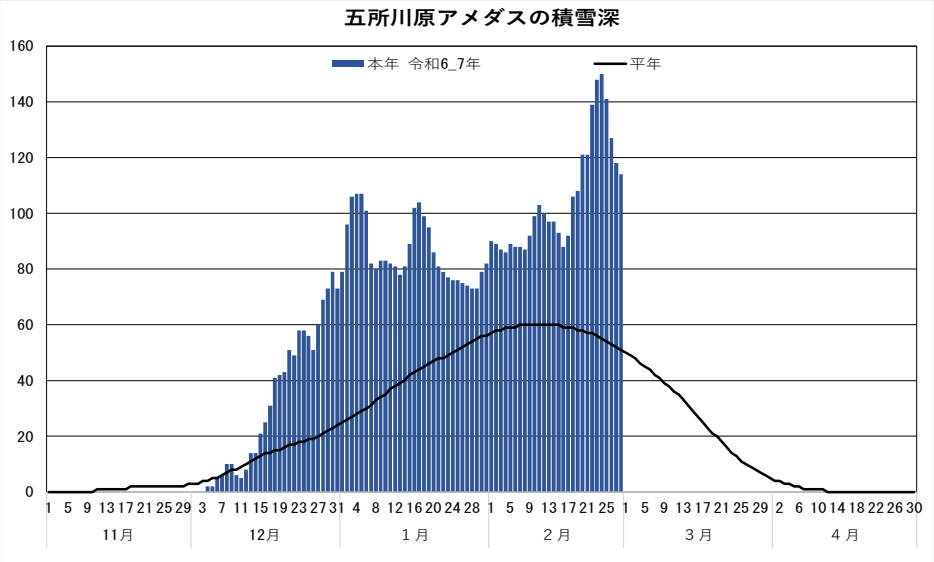
地域計画策定に向けた集落座談会（左：五所川原市（11/22）、右：つがる市（12/10））

３　大雪被害対応

（１）背景

県内では、12 月から１月にかけて冬型の気圧配置が続き、上空の強い寒気や気圧の谷の影響で断続的な降雪により、24 時間降雪量の最大値が五所川原市では 79 ㎝(観測史上３位)、鰺ヶ沢町で 43 ㎝（同６位）となるなど記録的な大雪となった。２月には長く居座った寒波の影響で、五所川原市では同月の最深積雪として観測史上２位、また、今冬最深の 150 ㎝の積雪となった。管内では、五所川原市、つがる市、板柳町、鶴田町、中泊町、鰺ヶ沢町でハウスや作業場の倒壊があり、果樹の枝折れも懸念されている。

県では、令和７年１月４日に豪雪対策本部を設置し、西北管内市町も深浦町を除く６市町が豪雪警戒対策本等を設置した。



（２）被災農家への営農指導

ア　野菜

定期的な巡回や農協等担当者との情報交換によりハウスの被害状況を確認した。ハウス全壊により作付けが困難な生産者には、農協と情報共有し、作付け可能な露地品目への切り替えを勧めている。融雪が進み、雪害状況が明らかになった時期に、改めて被害状況を確認し、ハウスで作付けが困難な場合、代替可能な露地品目への切替と栽培指導を行っていく。

イ　果樹

定期的な巡回や市町・農協等担当者との情報交換により園地の積雪状況や樹体の被害状況を確認している。各りんご部会等主催の剪定講習会や各りんご共同防除組織主催のりんご防除暦説明会等を活用して、現在のりんご園地の積雪状況や雪害防止対策について周知を図った。

融雪が進み、雪害状況が明らかになった時期に市町村・農協等を連携して改めて雪害状況の確認を行い、雪害による枝折れや野そ被害への対応策について周知を図る。

Ⅲ　情報の発行状況

１　みどりの通信

＜第１号＞　令和６年４月発行

〇令和６年度のスタートに当たって

〇農業普及振興室の重点的な取組、職員紹介

〇新農業経営士、青年農業士、ＶｉＣ・ウーマン、土づくりの匠

〇令和６年度ニューファーマーズカレッジ受講生募集

〇みどり認定について

〇注意喚起

りんご生産者の皆さん「コンフューザーＲ」を設置しましょう

令和６年度第1号（令和６年４月２４日発行）

みどりの通信

西北地域県民局地域農林水産部
農業普及振興室
五所川原市栄町10　電話0173-34-2111(代)
分　室
つがる市木造桜木9-1　電話0173-42-2222

令和６年度のスタートに当たって　　農業普及振興室長　對馬　和明

春の農作業も本格化してきました。

今年度、当室では「稼げる「西北型水田農業」定着加速化事業」でスマート農業の導入効果の最大化や高収益野菜へのチャレンジを後押しするとともに、「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産、高品質りんごの輸出基盤強化や「あおもり型農村RMO」の育成に重点的に取り組んでいきます。

また、各作物の生産振興、農山漁村女性への活動支援や担い手・若手農業者の育成確保などを進め、地域の農業振興に貢献していきたいと思いますので、関係者の皆様には、引き続き御支援、御協力くださるようお願いします。

農業普及振興室の重点的な取組

良食味米生産地として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産

県産米の新たな需要獲得に向け、関係機関と連携して「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産を支援します。

西北地域「青天の霹靂」「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム現地巡回▶

稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

技術実証ほの設置、スマート農機実演会、スキル向上研修会により、スマート農業技術の普及・人財育成に取り組みます。

自動操舵による大豆中耕作業の実証▶

中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

水田を活用した野菜の技術習得の場の設置や情報交換会等の開催により、野菜導入のチャレンジを支援し、経営安定に向けた複合経営の普及拡大を目指します。

実践しながら技術を学ぶ「トレーニングファーム」▶

高品質りんごの安定輸出に向けた交信攪乱剤設置面積拡大

交信攪乱剤の効果や設置方法を普及し、設置面積の拡大を図ります。

りんご交信攪乱剤の設置の実演▶

あおもり型農村RMOを目指した農山漁村づくり

地域の食や農泊等を生かし、稼ぐ力のある持続可能な農山漁村形成を支援します。

地域の食を紹介する加工グループ員▶

第１号イメージ

＜第２号＞　令和７年２月発行

〇重点指導計画の成果

・良食味米生産地として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産

・稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

・中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

・水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大

・地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり

・地域を支える農山漁村起業の推進

〇令和６年産あおもりの旨い米グランプリ受賞者紹介

〇みどり認定について

〇りんごの交信攪乱剤の使用について

２　ホームページ

農業普及振興室の取組内容として農作物生産情報（４月～11 月）や栽培技術に関するマニュアルなどを掲載するとともに、鳥獣害対策、ニューファーマーズカレッジや農村青少年クラブ活動などについて情報発行を行った。

また、「スマート農業」を推進するため、情報発信を行った。

＜アドレス＞

http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ni-nosui/seihokunourin-top.html

農業生産情報のページ

「スマート農業」の推進について

Ⅳ　集団・組織の活動状況

１　農業経営士・青年農業士

（１）各市町の農業経営士、青年農業士数

（単位：人）

市町名	農業経営士	青年農業士	計	所属等
五所川原市	8	3	11	北五地区 農業経営士・青年農業士会
板柳町	3	1	4	
鶴田町	1	7	8	
中泊町	1	1	2	
つがる市	13	10	23	つがる市農業士会
鰺ヶ沢町	2	7	9	鰺ヶ沢地区指導農業士会
深浦町	0	2	2	
計	28	31	59	

（２）北五地区農業経営士会

ア　会員構成

（単位：人）

市町名	農業経営士	青年農業士	計	所属等
五所川原市	8	3	11	会長　長峰　良孝 （鶴田町：青年農業士）
板柳町	3	1	4	
鶴田町	1	7	8	
中泊町	1	1	2	
計	13	12	25	

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加人数
７月 24 日	県農林水産部長との意見交換会	１人
２月４日	令和６年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式、令和６年度農業経営士会・青年農業士会通常総会（青森市）	10 人

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加人数
	役員会（6/20、12/19、2/3）	各５人
４月 11 日	普及指導員との情報交換会	13 人
２月 26 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	18 人

（３）つがる市農業士会

ア　会員構成

（単位：人）

市町名	名誉農業経営士	農業経営士	青年農業士	指導農業士	計	会長　坂本　宗幸（つがる市：青年農業士）
つがる市	16	13	10	11	50	

※名誉農業経営士：農業経営士の認定期間満了後も、つがる市農業士会の活動を続けている人
指 導 農 業 士 ：青年農業士の認定期間満了後も、つがる市農業士会の活動を続けている人

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加人数
	役員会（4/12、6/6、12/13）	延べ４人
７月 24 日	県農林水産部長との意見交換会、視察研修（八戸市）	４人
９月２～３日	令和６年度東北・北海道地域農業士研究会　岩手大会	１人
２月４日	令和６年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式、令和６年度農業経営士会・青年農業士会通常総会（青森市）	17 人

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加人数
	役員会８回(4/25, 5/27, 6/20, 7/19, 8/27, 10/23, 11/22, 2/7)	延べ 56 人
７月９日	つがる市長との意見・情報交換会（つがる市）	17 人
12 月６日	つがる農業活性化フォーラム（つがる市）	20 人
１月 17 日	青年農業士全体会議（五所川原市）	10 人
１月 24 日	新年情報交換会（五所川原市）	10 人
２月 26 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	15 人

つがる市長との意見交換会（7/9）

つがる農業活性化フォーラム（12/6）

（４）鰺ヶ沢地区指導農業士会

ア　会員構成

（単位：人）

市町名	名誉農業経営士	農業経営士	青年農業士	青年農業士ＯＢ	計	所属等
鰺ヶ沢町	4	2	7	12	25	会長　八木田　正輝 （鰺ヶ沢町：青年農業士）
深浦町	0	0	2	2	4	
計	4	2	9	14	29	

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加人数
	役員会（4/12、6/6、12/13）	延べ３人
２月４日	令和６年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式、令和６年度農業経営士会・青年農業士会通常総会（青森市）	４人

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加人数
	役員会（6/28、2/17）	延べ 11 人
８月 22 日	視察研修（岩手県滝沢市）	４人
２月 26 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	９人

「岩手県全国農業機械実演展示会」視察研修（岩手県滝沢市）（8/22）

２　西北地域ＶｉＣ・ウーマンの会

（１）役員（令和５～６年度）

役職	氏名	市町名	役職	氏名	市町名
会長	瀬戸　ひとみ	鶴田町	会計	松橋　久美子	つがる市
副会長	工藤　しのぶ	つがる市	書記	荒関　友子	中泊町
〃	松山　和江	鰺ヶ沢町	監事	小野　列子	五所川原市
〃	田中　恵津子	中泊町	〃	野呂　奈穂子	鰺ヶ沢町

（２）会員構成

62 人（R6.4.1 現在、ＯＧを含む）

（五所川原支部 18 人、奥津軽支部 12 人、つがる市支部 18 人、鰺ヶ沢支部 14 人）

（３）活動状況

ア　会議

開催日	内容	参加人数
４月 10 日	第１回役員会（五所川原合同庁舎会議室）	11 人
12 月４日	第２回役員会（五所川原合同庁舎会議室）	10 人
１月 28 日	令和７年度総会（五所川原市民学習情報センター）	33 人

イ　研修

開催日	内容	参加人数
６月 18 日	西北地域ＶｉＣ・ウーマン交流会 ・りんご園地見学（株式会社 SATO FARM　りんご園） 「働きやすい労働環境に取り組んで」 講師　ＶｉＣ・ウーマン　佐藤恵美氏 ・ワークショップ・講演（お山の上工房） 「食を通じて鰺ヶ沢町の良さを発信」 講師　株式会社 CONVEY（コンベイ）	26 人

＜交流会の様子＞

りんご園で取組を紹介する佐藤恵美氏

CONVEY で盛り付け体験

ウ　地域に密着した活動の実施

支部名	月日	内容（場所）	参加人数
五所川原	12 月 25 日(水)	・アップルパイづくり体験 ・小野列子氏の講話 （板柳町ふるさとセンター）	９人
つがる市	11 月 28 日(木)	・直売活動、地域文化に関する視察研修 （藤崎町ふじさき食彩テラス、 弘前市ギャラリーＣＡＳＡＩＣＯ）	15 人
鰺ヶ沢	８月 24 日(土)	・お山の上マルシェ出店 （鰺ヶ沢町 CONVEY お山の上工房）	６人
奥津軽	３月６日(水)	・「ゆうあファーム」の視察研修 アップルパイづくり体験と、地域活動に関する講話（五所川原市若山集会所）	12 人

アップルパイづくり体験
（五所川原支部）

津軽塗を学んだギャラリーで
（つがる支部）

CONVEY お山の上マルシェ出店
（鰺ヶ沢支部）

地域活動に関する勉強会
（奥津軽支部）

３　生活改善・生活研究グループ

（１）会員構成

組織名	グループ数	人数	会長
五所川原地区生活研究グループ連絡協議会	1	10	小野 列子
つがる市生活改善グループ連絡協議会	11	28	中村　嘉子
鰺ヶ沢地区生活改善グループ連絡協議会	11	28	佐藤　靖子
計	23	66	

（２）五所川原地区生活研究グループ連絡協議会

開催日	内容	参加人数
6 月 28 日	先進事例研修会（弘前市　津軽あかつきの会） ・郷土料理の伝承活動	10 人
12 月 11 日	グループ員研修会(五所川原市コミュニティセンター三好) ・うんぺいの実習　講師：今サカエ氏	10 人

先進事例研修（6/28）

グループ員研修会（12/11）

（３）つがる市生活改善グループ連絡協議会活動状況

開催日	内容	参加人数
7 月 2 日	先進事例研修 ・直売所の取組（東北町　道の駅おがわら湖） ・さつまいもの加工体験 （六戸町青森県産業技術センター農産物加工研究所）	12 人
11 月 29 日	衣の研修会（つがる市　農業普及振興室分室） ・余った布や風呂敷を使ったバックづくり 講師：野呂明子氏	7 人
12 月 20 日	食の研修会（つがる市　松の館） ・防災食をテーマとした調理実習 講師：中村嘉子氏、長谷川たか子氏 秋田谷るみ子氏、松橋花枝氏	9 人

２月７日	第 39 回くらしの工夫展（つがる市　松の館） ・作品展示、農産物加工品の販売、活動展示 （来場者　約 250 人）	11 人

先進事例研修（7/2）

食の研修会（12/20）

（４）鰺ヶ沢地区生活改善グループ連絡協議会活動状況

開催日	内容	参加人数
７月９日	グループ員研修会（深浦町北金沢総合防災センター） ・技術伝達講習 講師：佐藤靖子氏、山本ミサ子氏、齋藤啓子氏	13 人
９月３日	「手づくりの味と技を楽しむ会」事前研修会 ・伝承料理のレシピ確認と運営打合せ	12 人
９月 17 日	令和６年度「手づくりの味と技を楽しむ会」 （鰺ヶ沢町総合保健福祉センター） ・消費者交流　一般消費者 11 人参加 講師：神馬ユキ氏、堀内きよ子氏、大石京子氏 山本ミサ子氏（実演：齋藤啓子氏）	13 人
12 月 10 日	グループ員研修会（鰺ヶ沢町舞戸公民館） ・技術伝達講習 講師：大石京子氏、齋藤啓子氏、佐藤靖子氏	14 人

手作りの味と技を楽しむ会(9/17)

グループ員研修会（12/10）

４　農村青少年クラブ

（１）会員構成

組織名	構成市町	人数	会長
五所川原地区４Ｈクラブ	五所川原市、鶴田町、板柳町、中泊町	9	田澤　貴裕
つがる農村青少年クラブ	つがる市	20	三上　統史
計		29	

（２）五所川原地区４Ｈクラブ活動状況

開催日	内容	参加人数
４月 24 日	第１回全体会議、顔合せ会	８人
７月 19 日	役員会	３人
12 月 18 日	第２回全体会議	ｵﾝﾗｲﾝ（９人）
３月下旬	総会	９人（予定）

（３）つがる農村青少年クラブ活動状況

開催日	内容	参加人数
４月 12 日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会地区連会長会議	１人
４月 24 日	分室職員とクラブ員の顔合わせ	12 人
５月～６月	県青交打合せ（5/27）、予行演習（5/29、6/11）	延べ 17 人
７月４日	第 27 回青森県農業青年交流大会（つがる市）	11 人
７月５日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会県内視察研修	２人
７月９日	つがる市農業士会見集会及び情報交換会	８人
11 月 29 日	令和６年度つがる農業活性化フォーラム	５人
２月７日	新年会	16 人
２月 13 日～14 日	令和６年度青森県青年農業者会議（上北町）	５人
４月～１月	機関誌「な and わ」作成（６回）	延べ 57 人

青森県農業青年交流大会（7/4）

青年農業者会議意見発表（2/13）

５　若手女性組織

（１）ＫＯＳ（きづくりオリジナルスター）

ア　会員構成

７人（五所川原市２人、つがる市４人、鶴田町１人）

会長　山谷　綾子

※旧木造地区４ＨＣの活動が前身となっている

イ　活動目的

同世代の仲間の輪を広げるとともに、身近な課題に目を向け、先輩農業者への訪問や研修会の開催などで身につけた知識や技術を、農業や暮らしに生かす。

ウ　活動状況

開催日	内容	参加人数
６月 20 日	顔合わせ会（五所川原合同庁舎） ・今年度の活動計画の策定	６人
７月 11 日	おじゃまします交流会（五所川原市） ・大玉トマトの収穫・管理作業体験 講師：三潟千鶴氏	３人
12 月 10 日	仲間づくり交流会（つがる市　松の館） ・うどんづくり体験 講師：深浦町地域おこし協力隊　浪岡敏勇氏	２人
１月 27 日	新年交流会（つがる市　つがる地球村） ・ヨガ体験　講師：成田久美子氏 ・情報交換	５人

おじゃまします交流会（7/11）

仲間づくり交流会（12/6）

６　西北津軽産直ネットワーク協議会

（１）会員構成

組織・団体名	代表者	所在地	備考
ＪＡごしょつがる女性部やさいＳＵＮプラザ (やさいＳＵＮプラザ元気じるし農産物直売所)	小笠原ふじ江	五所川原市	
ＪＡごしょつがる梅加工部会	斉藤ヒロ子	五所川原市	
三好村づくり協議会	小野　慶子	五所川原市	会計
ＪＡつがるにしきた鶴翔農産物直売コーナー友の会(鶴の里あるじゃ農産物販売コーナー)	鈴木　照子	鶴田町	
板柳町農産物直売アンテナショップ 「とれたて市」運営協議会 (板柳町ふるさとセンター「とれたて市」)	米澤　康春	板柳町	会長
中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 (中泊町特産物直売所「ピュア」)	田中恵津子	中泊町	理事
うちがた工房	小山内恒仁	中泊町	
つがる市農産物直売所友の会 (つがる市農産物直売所)	村上　靖徳	つがる市	
（株）つがる女性加工	竹内きよゑ	つがる市	
「あじ・彩・感」倶楽部 (海の駅わんど農産物直売所「あじ・彩・感」)	木村　清二	鰺ヶ沢町	副会長
道の駅もりた「おらほのめへ」	木村　茂子	鰺ヶ沢町	監事

（２）活動状況

ア　会議

開催日	内容	参加人数
３月 27 日	令和６年度通常総会	６人
５月 24 日	第１回役員会	４人
１月 20 日	第２回役員会	５人

イ　研修

開催日	内容	参加人数
３月 27 日	研修会 「地域密着型交流拠点施設～農産物で地元に活力を～」 講師　農業生産法人有限会社ＡＮＥＫＫＯ(あねっこ) 代表取締役　村上美栄子氏	５団体 （６人）
７月７日	「五所川原歩行者天国２０２４」出店	１ブース ２団体
９月６日	先進事例視察研修（岩手県盛岡市　RootsMart 産直とボタニカル、サン・フレッシュ都南、賢治の大地館）	２団体 （４人）

五所川原歩行者天国出店（7/7）

産直とﾎﾞﾀﾆｶﾙ RootsMart 店内視察（9/6）

ｻﾝ・ﾌﾚｯｼｭ都南の事業説明拝聴(9/6)

ｻﾝ・ﾌﾚｯｼｭ都南店内視察(9/6)

7　津軽米づくりネットワーク

（１）会員構成

市町名	人数	役員
五所川原市	15	会長　吉田　郁世
つがる市	24	副会長　境谷　一智、工藤　康記
鰺ヶ沢町	2	事務局長　斎藤　祐規
板柳町	3	理事　濱田　浩平、三潟　洋生、秋田谷和智
鶴田町	1	工藤　正也、野呂　淳悦
中泊町	3	監事　小野　修身、野呂　修聖
藤崎町	1	会計　加藤　潤哉
計	49	相談役　山内　勝、木村　農也

（２）活動状況

ア　会議

開催日	内容	参加人数
６月４日	第１回役員会	11 人
６月 25 日	第２回役員会	６人
８月 23 日	第３回役員会	14 人
11 月 28 日	第４回役員会	10 人
２月３日	第５回役員会	12 人
３月 17 日	通常総会	

イ　研修

開催日	内容	参加人数
６月６日	経営面積および先端農業技術・機械に係るアンケート	（49 人）
７月 20 日	第１回研修会（藤崎町俵舛、鰺ヶ沢町建石、つがる市木造） ・エフ・ベース株式会社、有限会社風丸農場、 野呂修聖氏の取組事例視察	23 人
９月５日	知事への要望活動（県庁第２応接室：知事ほか幹部職員） ・米価安定を目指し、需要に応じた米の生産に向けた取組支援 ・省力・低コスト栽培への取組みに対する支援の拡充 ・青森県産米の取引地位向上のため、世界に対する知事自らによるＰＲ活動の取組	４人
10 月	あおもりの旨い米グランプリへの出品	12 人
11 月 28 日	稲ＷＣＳの生産および籾殻の敷料利用に係る意見交換 （五合庁１階Ｃ会議室：県庁畜産課）	10 人

11 月 29 日	つがる農業活性化フォーラム （つがる市生涯学習交流センター「松の館」） ・日本産米輸出事業及び青森県産米の輸出拡大について 講師：株式会社クボタアグリ生販推進部長 宇部善男氏	13 人
1 月 14 日	令和６年度青森の稲作技術セミナー ・令和６年度「超・低コスト米」実証結果 農産園芸課、西北地域県民局地域農林水産部 ・講演 「省力・低コスト化に向けた大規模生産法人の取組」 講師：農業生産法人株式会社ヤマザキライス 代表取締役 山﨑能央氏 ・パネルディスカッション 「超・低コスト」栽培による高収益実現へのヒント パネリスト：農業生産法人株式会社ヤマザキライス 代表取締役 山﨑能央氏 有限会社豊心ファーム代表取締役 境谷一智氏（『超・低コスト米』実証農家） 農林水産政策課 農業革新支援専門員 佐藤明子氏 コーディネーター：公益財団法人流通経済研究所 主席研究員 折笠俊輔氏	７人
1 月 21 日 ～23 日	第２回研修会 ・米卸売事業者等との意見交換会 （協同組合日本飼料工業会、株式会社ミツハシ、 日本農産工業株式会社、三菱商事株式会社）	６人
1 月 30 日	西北地域スマート農業研修会 （つがる市生涯学習交流センター「松の館」） ・クボタ営農支援システムＫＳＡＳの利用方法 講師：株式会社クボタ農機国内営業本部 担い手戦略推進室ＫＳＡＳ推進課長藤田強氏 ・ザルビオフィールドマネージャーの利用方法 講師：全国農業協同組合連合会耕種総合対策部 東北営農資材事業所 堅持拓真氏 ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社 北東北営業部津軽ブロック営農推進部長 神俊成氏 アグリサポート部課長格 稲葉進之助氏	７人

２月 21 日	ザルビオヘルシーフィールド説明会 （五所川原合同庁舎１階Ｃ会議室） ・ザルビオヘルシーフィールドの概要 講師：ＢＡＳＦジャパン株式会社 アグロソリューション事業部　鑓田啓亮氏	１５人

有限会社風丸農場現地視察(7/20)

知事への要望活動(9/5)

県庁畜産課との意見交換(11/28)

青森の稲作技術セミナー(1/14)

ザルビオヘルシーフィールド説明会(2/21)

Ⅴ　気象経過と農作物の生育状況

１　気象経過

月	概要
４月	高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、中旬以降は低気圧や前線の影響により曇りや雨の日もあった。 平均気温は平年よりかなり高かった。降水量は津軽ではかなり少ない所があった。日照時間は、津軽では平年よりかなり多かった。
５月	高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、低気圧や前線の影響により曇りや雨の日もあった。 平均気温は平年より高いまたはかなり高かった。降水量は津軽では平年並または少なかったが多いところもあった。日照時間は津軽は平年並だった。
６月	高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、低気圧や前線の影響により曇りや雨の日もあった。また、暖かい空気に覆われやすかったため気温がかなり高くなった。青森県を含む東北北部は、23 日頃に梅雨入りしたとみられる（平年は 15 日頃）。平均気温は平年よりかなり高かった。降水量は津軽では平年並または多かった。日照時間は、津軽は平年より多いまたはかなり多かった。
７月	前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多かったが、高気圧に覆われ晴れの日もあった。また、暖かい空気に覆われたため、気温がかなり高くなった。 平均気温は平年よりかなり高かった。降水量は津軽では平年より多く、かなり多い所もあった。日照時間は津軽では平年より少ないまたは平年並だった。
８月	台風や低気圧、前線の影響で、曇りや雨の日が多かったが、高気圧に覆われ晴れの日もあった。また、期間を通して暖かい空気に覆われた日が多かったため、気温がかなり高くなった。 青森県を含む東北北部は８月２日頃に梅雨明けした（平年は７月 28 日頃）。 平均気温は、平年よりかなり高いまたは高かった。降水量は、津軽では平年並または少なかった。日照時間は、津軽では平年より少ないまたは平年並だった。
９月	高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日もあった。 平均気温は、平年よりかなり高いまたは高かった。降水量は、津軽では平年よりかなり少なかった。日照時間はかなり多かった。
10 月	上旬は前線や低気圧の影響により、曇りや雨の日が多かったが、中旬以降は、高気圧に覆われ晴れの日が多かった。 平均気温は、平年よりかなり高かった。降水量は、津軽では平年並または多かった。日照時間は、平年より多いまたは平年並だった。
11 月	前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多かったが、高気圧に覆われ晴れの日もあった。 なお、青森では７日に初雪を観測した（平年は 11 月８日）。 平均気温は、平年並または高かった。降水量は津軽では平年並または多かった。日照時間は、津軽では平年並または多かった。降雪量は、津軽では平年並または少なかった。最深積雪は、津軽では平年並または少なかった。
12 月	冬型の気圧配置や低気圧の影響で、曇りや雪の日が多かったが、晴れの日もあった。 平均気温は平年より低かった。降水量は、津軽は平年よりかなり多いまたは多かった。日照時間は、津軽では平年よりかなり少ないまたは少なかった。降雪量は、津軽では平年よりかなり多いまたは多かった。最深積雪は、津軽では平年よりかなり多いまたは多かった。

（青森地方気象台発表資料参考）

２　水稲

【本年産の特徴】

◎　水稲の生育に影響を及ぼした気象現象として、
①田植え直後は低温だが、以降収穫まで平年より気温が高く推移した。
②田植え直後、幼穂形成期頃、出穂直前、登熟期間中に日照時間が少ない時期があった。

◎　管内生育観測ほの「まっしぐら」の 10ａ当たり収量は、平年並みであった。

◎　県全体の 10ａ当たり収量は 623kg、作況指数は 103、津軽地帯の 10ａ当たり収量は 637kg、作況指数は 103 であった。市町別の 10ａ当たり収量は、五所川原市 662kg、つがる市 667kg、鰺ヶ沢町 618kg、深浦町 572kg、板柳町 626kg、鶴田町 623kg、中泊町 626kg であった（東北農政局公表、12 月 10 日及び 20 日）。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>作業等
進捗状況</td><td>
は種作業は順調に進み、は種最盛期はほぼ平年並みであった。
耕起・代かき作業は順調に行われ、田植最盛期は平年並みであった。
田植え後、高温で推移したため生育は早まり、出穂最盛期は平年より３日早かった。
出穂後、日照時間が少ない時期があったものの、高温で推移したことから登熟が進み、刈取最盛期は平年より５日早かった。

西北地域の作業等進捗状況
<table>
<tr><th>項目</th><th>は種</th><th>田植</th><th>出穂</th><th>刈取</th></tr>
<tr><td>始</td><td>4/6</td><td>5/12</td><td>7/27</td><td>9/14</td></tr>
<tr><td>最盛
(平年差)</td><td>4/13
(1 日遅)</td><td>5/19
(±0 日)</td><td>7/31
(3 日早)</td><td>9/26
(5 日早)</td></tr>
<tr><td>終</td><td>4/21</td><td>5/26</td><td>8/9</td><td>10/6</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>県生育
観測ほの
生育状況</td><td>
◎田植え～出穂期
５月中旬までは高温で推移したが、５月第６半旬から６月第１半旬は低温・少照で推移したことから、田植えが遅れたほ場では初期生育の遅れがみられた。その後の生育期間は高温で推移したことから順調に生育し、幼穂形成期は７月６日（平年比１日早）、出穂期は７月 28 日（平年比３日早）であった。

◎登熟期～成熟期
成熟期の生育は稈長は平年よりかなり長く、穂長は平年よりやや長く、㎡当たり穂数は平年よりやや少なく、㎡当たり籾数は平年よりかなり少なかった。成熟期は９月 10 日（平年比４日早）であった。
</td></tr>
</table>

◎収量・品質

10ａ当たり玄米重は平年並みであった。検査等級は４地点で１等、１地点で２等に格付けされた。玄米タンパク質含有率は平年より 0.6 ポイント高かった。

県生育観測ほ調査結果（成熟期）

（単位：cm、本、粒、％）

	年次	稈長	穂長	株当穂数	㎡当穂数	１穂籾数	㎡当籾数×100	登熟歩合
まっしぐら	本年	83.2	19.2	19.7	375	83.4	315	85.5
	平年	76.9	18.4	19.7	398	85.0	337	83.6
	平年比	108	105	100	94	98	93	+1.9

県生育観測ほ調査結果（収量）

（単位：kg/10a、g、％）

	年次	全重	玄米重	屑米重	玄米千粒重	玄米ﾀﾝﾊﾟｸ質含有率
まっしぐら	本年	1,672	667	50	22.7	6.7
	平年	1,656	657	28	23.1	6.1
	平年比	101	102	175	98	+0.6

五所川原市太刀打、中泊町宮川、つがる市福原、車力、鰺ヶ沢町日照田の５地点平均

産米検査状況

主要３品種（まっしぐら・青天の霹靂・はれわたり）の１等米比率は97.1％(前年 58.6％)であった。

病害虫発生状況

育苗期間全体を通して高温傾向で推移したため、苗立枯病（ピシウム）の発生量は少なかった。一方、ばか苗病の発生が多かった。

イネドロオイムシ、イネミズゾウムシの発生量は平年並みであった。

いもち病は、葉いもちの発生量は平年並み、穂いもちの発生量は少なかった。

紋枯病の発生量はやや多く、一部で上位まで進展がみられた。

斑点米カメムシ類は、全般に高温小雨であったため発生に好適で、予察灯による誘殺数は平年より多く推移し、一部で被害がみられた。

３　大豆

【本年産の特徴】

◎　は種作業は、５月中旬から始まった。一部のほ場で干ばつによる出芽の遅れがみられたものの、その後の降雨により回復した。
◎　生育期間を通して高温で経過し、一部のほ場で湿害による生育不良がみられたものの、管内の生育は概ね順調であった。
◎　刈取は、平年よりやや早い 10 月第５半旬から始まり、その後、長期間の降雨が無く順調に進んだことから、終わりは平年より早かった。
◎　全般に小粒傾向で、一部ほ場ではシワ粒の発生がみられた。

項目	概要
は種～出芽期	は種作業は、５月中旬から始まり、多くのほ場で６月第１半旬から第３半旬にかけて行われた。 ６月第２半旬から第４半旬にかけて降水量が少なかった影響で、一部ほ場において出芽の不揃いがみられたが、その後の降雨により回復した。
生育期、開花期	期間を通して高温で経過したことから、管内の生育は概ね順調であった。一部のほ場では８月第６半旬の降雨による湿害がみられた。 県生育観測ほ（つがる市）の開花期は７月 22 日で、管内のほ場は７月第５半旬～第６半旬に開花期を迎えた。
成熟期	成熟期においても気温が高めに経過したことから、登熟は順調に進んだ。県生育観測ほの成熟期は 10 月 15 日となった。
収穫作業	刈取は、平年よりやや早い、10 月第５半旬から始まり、その後、長期間の降雨が無く順調に進んだことから、終わりは平年より早かった。 県生育観測ほの坪刈りの子実重は 31.9kg/a、百粒重は 30.0g であった。また、全般に小粒傾向で、一部ほ場ではシワ粒の発生がみられた。
病害虫の発生状況	紫斑病の発生ほ場が散見された。また、一部ほ場では、べと病、マメシンクイガ、ホソヘリカメムシの発生があった。

管内の大豆刈取進捗状況

市町名	刈取始	最盛期	刈取終
五所川原市	10/24(3 日早)	11/3(3 日早)	11/16(3 日早)
つがる市	10/22(2 日早)	11/1(2 日早)	11/13(9 日早)
鰺ケ沢町	10/21(2 日早)	11/1(3 日早)	11/13(8 日早)
中泊町	10/21(6 日早)	10/31(6 日早)	11/10(10 日早)

注)（　）は、平年差

県生育観測ほ（つがる市木造）調査結果

（cm、本/本、kg/a、g、莢/本）

年次	9/10 草丈	分枝数	全重	子実重	百粒重	稔実莢数
本年	89.1	2.3	62.2	31.9	30.0	34.4
平年	90.1	2.9	61.2	34.4	37.9	33.2

注) 令和６年から調査ほ場が変更になったため、平年欄には前年まで同調査を行っていた五所川原市金木嘉瀬ほ場の調査結果を参考値として記載（平成 26 年～令和５年の平均値)。

４　小麦

【本年産の特徴】

◎　は種作業は、９月中旬から始まり、10 月始めにはほぼ終了した。出芽は良好で、越冬前の生育量は十分確保できていた。
◎　降雪量が少なく、積雪深が低く推移したことから、雪腐病の発生は少なかった。
◎　幼穂形成期はおおむね平年並み、出穂期は平年より６～８日早かった。
◎　刈取作業は、降雨日があったものの、概ね順調に進んだ。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>越冬前</td><td>は種作業は、９月中旬から始まった。は種期間に降雨日があったものの、降雨の合間を縫って作業は進み、10 月始めにはほぼ終了した。出芽は全般に良好で、越冬前の生育量は十分確保できていた。</td></tr>
<tr><td>越冬後</td><td>消雪は平年より５日以上遅い３月 10 日過ぎであった。根雪期間は平年より長かったが、降雪量が少なく、積雪深が低く推移したことから雪腐病の発生は少なかった。</td></tr>
<tr><td>出穂期</td><td>県生育観測ほの幼穂形成期は、ネバリゴシは平年より２日遅く、キタカミコムギは平年より４日早くなった。その後、４、５月の気温が平年より高く推移したこと等から、順調に生育し、出穂期は平年より６日以上早かった。

県生育観測ほ（つがる市木造）における幼穂形成期・出穂期
<table>
<tr><th rowspan="2">品種名</th><th colspan="2">幼穂形成期</th><th colspan="2">出　穂　期</th></tr>
<tr><th>本年</th><th>平年差</th><th>本年</th><th>平年差</th></tr>
<tr><td>ネバリゴシ</td><td>3/25</td><td>２日遅</td><td>5/11</td><td>８日早</td></tr>
<tr><td>キタカミコムギ</td><td>3/25</td><td>４日早</td><td>5/14</td><td>６日早</td></tr>
</table>
平年値　ネバリゴシ：平成 14 年～令和５年（令和４年は欠測のため除外）
キタカミコムギ：平成８年～令和５年</td></tr>
<tr><td>登熟期</td><td>６月の気温が平年より高かったこと等から登熟は順調に進んだ。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>収穫期</td>
<td>
刈取作業は６月 27 日頃から始まった。７月も気温は平年より高く、降雨日があったものの、刈取作業は順調に進み、７月 15 日頃には概ね終了した。

県生育観測ほにおける成熟期の生育調査及び収量調査
<table>
<tr><th>品種名</th><th>成熟期</th><th>稈長(cm)</th><th>穂長(cm)</th><th>子実重(kg/a)</th></tr>
<tr><td>ネバリゴシ</td><td>6/28</td><td>97.1</td><td>8.1</td><td>75.8</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>7/4</td><td>80.9</td><td>7.8</td><td>41.3</td></tr>
<tr><td>キタカミコムギ</td><td>7/2</td><td>96.0</td><td>8.3</td><td>50.7</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>7/9</td><td>95.0</td><td>8.7</td><td>45.1</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>（令和７年産）
越冬前</td>
<td>
は種作業は、９月中旬から始まった。は種の期間に降雨日があったものの、降雨の合間を縫って作業は進み、10 月始めにはほぼ終了した。は種後の気温は平年より高く、出芽は全般に良好で、生育量が確保できていた。
</td>
</tr>
</table>

５　野菜

【本年産の特徴】

◎　５月下旬から６月上旬の低温と日照不足、７月から８月にかけての高温と日照不足、干ばつ傾向からの７月下旬、８月下旬の多雨の影響により、肥大不足や品質低下、収量減など多くの品目に影響がみられた。

◎　土壌病害やアザミウマ類、オオタバコガ類、ヨトウムシ類の発生が多くみられた。

項目等	概要
＜トマト＞	
定植期	主要作型（早植え）の定植は４月 20 日から５月 10 日にかけ平年並に行われた。順調に活着し、生育は概ね良好であった。
生育初期	５月下旬から６月上旬の低温、日照不足で生育がやや停滞したものの、その後回復し、収穫（共選）は例年並の６月 20 日頃から始まった。
生育中期～生育後期	７月以降は日照不足により空洞果、着色不良果が多くみられた。また７月中旬、８月上旬は高温と強日射により落花、早期白熟果、軟果、尻腐果が発生した。７月下旬、８月下旬の多雨後や９月以降は裂果や軟果が多く発生したほか、つやなし果、着色不良果がみられた。
収量・品質	日照不足とその後の高温、強日射の影響で単収は 7.3t と、前年(7.4t)をやや下回ったが、Ａ品率は 30％で前年(23％）を上回った。
病害虫	梅雨時期と秋以降は灰色かび病、８～９月にかけては、すすかび病や葉かび病、青枯病が散見された。害虫は７月から９月にかけてアザミウマ類、オオタバコガ被害果が散見された。昨年度県内初発生のトマトキバガは、防除回数が少ないほ場を中心に葉や果実の被害が確認された。
＜メロン＞	
定植期	トンネル栽培（４月下旬定植）の定植は、例年よりやや早い４月 10 日頃から始まり、４月 25 日頃がピークとなった。
生育初期	トンネル栽培は、５月下旬から６月上旬の低温により生育が緩慢となったが、６月 10 日に生育観測ほで調査した主づる長や葉数は平年を上回っていた。

開花・
着果期

トンネル栽培の交配作業は、５月下旬頃から始まったが、ミツバチによる交配が順調に進まないほ場がみられ、ホルモン処理を行った農家もあった。着果数は平年より少なかった。

肥大期

玉伸びは、５月下旬から６月上旬の低温の影響が予想より大きく全般に小玉傾向であった。

高温対策として、トンネルへの塗布剤の使用や色の付いたマルチをトンネルの上にかけて日陰をつくることをアドバイスした。

収量・品質

出荷は、ハウス栽培が例年並みの６月 25 日頃から始まり、トンネル栽培は例年よりやや早い７月 10 日頃から始まった。

その後、７月下旬の断続的な降雨により、収穫間際の株のしおれがみられるとともに、糖度が上がりづらい状況となった。

つがるメロン協議会（ＪＡごしょつがるとＪＡつがるにしきた）の出荷量は 148,041 ケース（１ケース８kg）で、目標 15 万ケースの 98.7%となった。

生育観測ほ（つがる市木造）のデータは、平均１果重が 1,433g で平年比 88%と小さく、また、１株当たり着果数が 3.2 果と少なかったことから、単収は平年比 84%と少なくなった。

県生育観測ほ調査結果

（単位：cm、枚、果/株、kg/10a）

年次	定植	6/10		7/10		着果	収穫	収量
		つる長	葉数	葉数	着果数			
本年	4/27	192.6	23.2	24.2	3.2	6/14	7/30	3.182
平年	5/3	165.0	21.8	25.7	3.5	6/14	7/28	3.776
前年	4/28	170.9	20.3	27.8	3.7	6/11	7/26	3.653

場所：つがる市木造、品種：タカミ(台木 ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾞｰﾄﾞﾊﾟﾜｰ)

平年値：H26～R5

病害虫

株のしおれ等の相談があったことから、普及振興室において顕微鏡で検鏡を行ったほか、農林総合研究所へ持ち込んだ結果、つる割病、炭腐病、ホモプシス根腐病、ネコブセンチュウの発生がみられた。

＜すいか＞

定植期

定植は、トンネル雨除け栽培は４月上旬から、トンネル普通栽培は４月下旬から始まった。

生育初期

５月下旬から６月上旬の低温や日照不足により玉伸びが一時停滞した。また、定植後降水量が少なく、乾燥の影響が懸念された。

肥大期	６月下旬から７月にかけてまとまった降雨があり、糖度への影響が懸念された。
収量・品質	トンネル雨除け栽培の収穫は、例年よりやや早い７月３日頃から始まり、７月中旬で終了した。 トンネル普通栽培は、例年よりやや早い７月 10 日頃から始まり、ピークは７月下旬となった。 収量は、７月下旬や８月の降雨等の影響により、計画比 81％と大きく落ち込んだ。品質は、前年のような強日射による日焼け果や過熟果が少なかった。販売金額は、単価が高かったことから、計画比 107％となった。（ＪＡつがるにしきた白神やさい・果実部会すいか班）
病害虫	株のしおれ等の相談があったことから、普及振興室において顕微鏡で検鏡を行ったほか、農林総合研究所へ持ち込んだ結果、つる割病、炭腐病、ホモプシス根腐病、ネコブセンチュウ、オオタバコガの発生がみられた。
＜ねぎ＞ 生育	消雪が早かったことから、定植は例年より早い３月 20 日頃から始まり、６月上旬まで続いた。 定植後は、降雨が少なくほ場が乾燥したことから、一部のほ場で活着遅れや生育停滞がみられた。その後は高温傾向が続いたことから順調な生育となった。
収量・品質	収穫は例年より早い７月 10 日頃から始まり、12 月まで続いた。高温・干ばつの影響で、肥大不足のものが多くＬ・Ｍ中心となった。 ７月下旬以降の高温多湿により、軟腐病や萎凋病が発生し、害虫の発生も多かったため、収量は例年を下回った。
病害虫	軟腐病や萎凋病、ネギアザミウマの発生が多くみられた。
＜にんにく＞ 生育	植付後は概ね順調であり、越冬後は、消雪が早く気温が高かったことから、草丈、葉数ともに平年を上回った。 りん片分化期は、例年より３日早い４月 18 日頃となった。 風が強い日が多く、降雨量が少なかったため、葉先枯れが多く、春腐病の発生が多かった。肥大時期の干ばつにより小玉傾向となった。

収量・品質	収穫は例年より２日遅い６月 19 日頃から始まり、６月 26 日頃がピークとなった。肥大は例年よりやや小さめで、収量は例年をやや下回った。品質は、春腐病による着色や割れの発生が多かった。
病害虫	昨年多発したさび病の発生は少なく、春腐病は多発生であった。 虫害はヨトウムシ類の発生が散見された。
＜ながいも＞ 生育	植付作業は、５月中旬から始まり６月末までで、最盛期は例年並みの５月下旬頃となった。 植付け後の生育は、気温が平年を上回り、また干ばつ傾向であったため、車力調査ほ場（６月５日植付け）で、萌芽は６月 22 日（17 日目）となり、つるの生育は順調であった。
収量・品質	収穫は例年並の 11 月 10 日頃から始まった。いもの形状は、生育期間中の高温・乾燥の影響により、肥大不足のものが多かった。また、亀裂・褐変やこぶ・溝等の発生は例年並みで、収量は例年を下回った。
病害虫	炭疽病が多発し落葉が多く、ナガイモコガが初期から発生量が多く、薬散により防除したが 10 月まで発生が継続した。
＜ブロッコリー＞ 生育	春穫り栽培は、定植後の強風の影響とその後の干ばつ傾向により、生育は停滞気味に推移した。その後、生育は一旦進んだものの、花蕾肥大期から収穫期の高温や干ばつ傾向等により生育の揃いが悪く、黒すす病や軟腐病が発生した。 秋穫り栽培は、定植直後からの高温の影響で、生育不良等がみられた。花芽分化期や花蕾肥大期の高温により花蕾の形成が不揃いとなり、軟腐病や黒すす病が発生した。
収量・品質	春穫り栽培の収穫は例年並みの５月 30 日頃から始まった。軟腐病や黒すす病の発生が多く、収量は例年を下回った。 秋穫り栽培の収穫は例年よりやや早い８月 25 日頃から始まった。軟腐病や黒すす病、不整形花蕾等の発生が多く、収量は例年を下回った。
病害虫	春穫り栽培と秋穫り栽培では、黒すす病や軟腐病、根こぶ病、ヨトウムシ類の発生がみられた。

６　りんご

【本年産の特徴】

◎　昨年度の積雪量が平年より少なく、４月第１半旬の気温が平年より高かったため、「ふじ」の発芽日が平年より４日程度早かった。その後の気温も平年よりかなり高く経過したため、「ふじ」の開花日は平年より 10 日程度早かった。

◎　果実肥大は、開花が平年より早まったことから、初期肥大は平年より大きかった。その後、８月上中旬の干ばつにより一時肥大が停滞した園地がみられ、最終的には平年並から平年をやや上回った園地が多かった。

◎　病害は、昨年に続き腐らん病の発生がやや多かった。また、褐斑病が散見されたほか、炭疽病や輪紋病の被害が一部地域でやや多かった。

◎　虫害は、シンクイムシ類の被害果が放任園や管理粗放園の周辺で特に散見されたほか、ナシマルカイガラムシの被害がやや多かった。

◎　昨年夏期の記録的猛暑の影響とみられる花芽の充実不足等により、一部園地では着果量が不足気味となった。

◎　12 月下旬からの断続的な降雪により、特に積雪量が著しい園地において枝折れ等の雪害が発生した。

項目	概要
	積雪量が平年よりかなり少なく、４月第１半旬の気温が平年より高かったため、県生育観測ほの「ふじ」の発芽日は平年より４日早い４月４日であった。その後の気温も平年より高く経過したことから、展葉日は平年より６日早い４月 12 日、開花日は平年より 10 日早い４月 28 日だった。開花日期間は、低温の影響等により平年より２日長い 12 日間であった。

県生育観測ほ（板柳町五幾形）における生育ステージ

品種	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	収穫始
ふじ	本年	4/4	4/12	4/28	5/3	5/9	11/10
	平年	4/8	4/18	5/8	5/13	5/18	11/12
	前年	3/24	4/6	4/27	5/2	5/9	11/10
	平年差	４日早	６日早	10 日早	10 日早	９日早	２日早

果実肥大	開花が早かったことから、初期肥大は平年より大きく、その後も順調に進んでいたが、７～８月に日照不足が続いたことから肥大は鈍化し、収穫期には平年並から平年よりやや大きい園地が多かった。 県生育観測ほ（板柳町五幾形）における生育ステージ （単位：cm、%）

品種	年次	6/1	7/1	8/1	9/1	10/1	11/1
ふじ	本年	2.3	5.0	7.3	8.7	9.3	9.6
	平年	1.5	4.0	6.1	7.7	8.5	8.9
	前年	2.6	5.3	7.4	8.8	9.6	9.9
	平年差	153	125	120	113	109	108

病害虫等	○病害 主要病害では、昨年に続き腐らん病の発生が多く、収穫期まで枝の被害が目立った。また、褐斑病の被害葉が７月末頃から確認され、９月中旬頃に急増し、10 月頃に入ると被害による落葉も目立ったほか、晩生品種を中心に被害果も散見された。さらに、９月頃から炭疽病、10 月以降に輪紋病の被害果が一部園地でやや多かった。 その他病害では、幼果期に山手の園地で赤星病による被害葉がみられたほか、葉のモザイク症状や変形果といったウイルスとみられる被害が散見された。 ○害虫 主要害虫では、ミダレカクモンハマキの被害葉が一部園地で目立った。また、シンクイムシ類の被害果が、特に放任園や管理粗放園周辺でみられた。さらに、ナシマルカイガラムシの発生がやや多く、幼果期から被害がみられた園地もあり、がくあ部やこうあ部に多数寄生した被害果があった。 その他病害では、ヨトウガ及びコガネムシ類による被害葉が目立った。
災害等	「ふじ」を中心に、昨年夏期の記録的猛暑の影響とみられる花芽の充実不足に加え、開花期間中に訪花昆虫が活発でなかったことから、一部園地では着果量が不足気味となった。 12 月下旬からの断続的な降雪により、管内の各調査園地における積雪深（１月６日時点）は、最も深い地点で 160 cmを記録した。特に積雪量が著しい園地において枝折れ等の雪害が発生した。

7　ぶどう（スチューベン）

【本年産の特徴】

◎　昨年度の積雪量が平年より少なく、４月の気温が平年より高かったため、生育ステージは早まり、発芽日は平年より８日早かった。以降の気温もおおむね高めに経過し、展葉日及び開花日は平年より７日早かった。

◎　９月以降は、寒暖差が大きかったことで「スチューベン」の着色や熟期が早く進み、収穫は平年より早かった。特に収穫終わりは、平年より 20 日早く、観測史上最も早かった。

◎　開花直前に、低温の影響と思われる花ぶるいがみられた。

◎　収穫期の脱粒が一部園地でみられた。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td></td><td>
昨年度の積雪量が平年より少なく、４月の気温が平年より高かったことから、生育観測ほの催芽日は平年より４日早い４月 11 日、発芽日は平年より８日早い４月 23 日であった。以降の気温もおおむね高めに経過し、展葉日は平年より７日早い５月２日、開花日は平年より７日早い６月 12 日であった。
９月以降は、寒暖差が大きかったことで着色や熟期が早く進み、収穫は平年より早かった。特に収穫終わりは、平年より 20 日早く、観測史上最も早かった。

県生育観測ほ（鶴田町境）における生育ステージ
<table>
<tr><th>年次</th><th>催芽日</th><th>発芽日</th><th>展葉日</th><th>開花始</th><th>開花日</th><th>満開日</th><th>落花日</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>4/11</td><td>4/23</td><td>5/2</td><td>6/8</td><td>6/12</td><td>6/15</td><td>6/27</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>4/15</td><td>5/1</td><td>5/9</td><td>6/16</td><td>6/19</td><td>6/21</td><td>7/1</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>3/30</td><td>4/18</td><td>5/6</td><td>6/12</td><td>6/14</td><td>6/16</td><td>6/28</td></tr>
<tr><td>平年差</td><td>４日早</td><td>８日早</td><td>７日早</td><td>８日早</td><td>７日早</td><td>６日早</td><td>４日早</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>年次</th><th>催芽日</th><th>発芽日</th><th>展葉日</th><th>開花始</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>8/9</td><td>8/18</td><td>9/19</td><td>10/8</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>8/19</td><td>8/27</td><td>9/27</td><td>10/28</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>8/10</td><td>8/20</td><td>9/24</td><td>10/24</td></tr>
<tr><td>平年差</td><td>10 日早</td><td>９日早</td><td>８日早</td><td>20 日早</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>病害虫等</td><td>
６月までは少なく推移したが、７月頃からコガネムシ類の発生が多く、葉の食害が目立った。
収穫期に、晩腐病の被害果が管理粗放園周辺の園地でみられた。
</td></tr>
</table>

災害等	５月上旬の低温による影響と思われる新梢の生育不良（霜害）が一部園地でみられた。 開花直前（６月上旬頃）の低温による影響と思われる花ぶるいがみられた。 生育が早かったことから熟度が前進し、また、８月後半の降雨により果粒が急激に肥大したため、収穫期の脱粒が一部園地でみられた。

８　花き

【本年産の特徴】

◎　夏場の高温により、開花期のずれが発生した。
◎　品質は平年並みだった。
◎　病害は少なかったが、虫害はヤガ類、アブラムシ類などが散見された。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>＜キク＞
生育状況</td><td>

施設栽培の５～６月出荷は順調に生育し、出荷は５月 20 日頃から始まった。その後は夏期の高温によりやや生育が遅延したが、高温障害も少なく、ほぼ平年並みの出荷となった。

県生育観測ほ調査結果(夏秋ギク、４月定植８月出荷(電照栽培))

（単位：月日、本/ａ、cm、ｇ）

<table>
<tr><th></th><th>定植期</th><th>栽植
本数</th><th colspan="2">草丈</th><th>収穫
最盛期</th><th>切花長</th><th>切花重</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>6/10</td><td>7/10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>本年</td><td>4/25</td><td>4,400</td><td>57.4</td><td>103.4</td><td>8/10</td><td>109.1</td><td>99.4</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>4/15</td><td>4,400</td><td>56.7</td><td>110.8</td><td>8/7</td><td>116.2</td><td>83.8</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>4/20</td><td>4,400</td><td>57.7</td><td>117.3</td><td>8/10</td><td>121.8</td><td>113.0</td></tr>
</table>

場所：五所川原市川山、品種：岩の白扇

県生育観測ほ調査結果(秋ギク、７月定植 10 月出荷(無電照栽培))

（単位：月日、本/ａ、cm、ｇ）

<table>
<tr><th></th><th>定植期</th><th>栽植
本数</th><th colspan="2">草丈</th><th>収穫
最盛期</th><th>切花長</th><th>切花重</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>8/10</td><td>9/10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>本年</td><td>7/9</td><td>4,065</td><td>32.3</td><td>92.4</td><td>10/23</td><td>110.7</td><td>88.1</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>7/8</td><td>4,018</td><td>38.1</td><td>93.9</td><td>10/22</td><td>114.7</td><td>106.2</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>7/10</td><td>4,200</td><td>29.8</td><td>90.9</td><td>10/29</td><td>115.4</td><td>98.3</td></tr>
</table>

場所：五所川原市川山、品種：神馬

</td></tr>
<tr><td>病害虫</td><td>

全般的にアブラムシ類やアザミウマ類が発生したほか、オオタバコガによる食害が散見された。

</td></tr>
</table>

<トルコギキョウ> 生育状況	定植作業は、秋まき無加温（越冬）夏出し栽培（以下、越冬栽培）では令和５年 10 月、春まき栽培では３月下旬から７月中旬までに行われた。 収穫は、越冬栽培では６月下旬、春まき栽培では例年より 10 日程度早まり、７月中旬頃から始まった。夏場の高温により、開花期が前進し、短茎開花したほ場が散見された。 令和５年産は、出荷本数は前年を下回ったものの、高単価だったため、販売金額は増加した。
病害虫	アザミウマ類やヤガ類による虫害が散見された。 病害はほとんどみられなかった。

Ⅵ　表彰・認定

１　表彰事業受賞者

表彰	受賞	受賞者	市町
令和６年度農林水産祭	内閣総理大臣賞	中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会（中泊町特産物直売所「ピュア」運営者）	中泊町

＜内容＞

地域の生産者である出荷者協議会と直売所の指定管理者である地元企業が連携し、「誰も取り残さない直売所」を目指し、地域課題に取り組んでいる活動が評価された。

代表的な取組は、

・農産物の出荷が困難な高齢会員を対象とした集荷

・買い物支援と高齢者の見守り、交流の場となっている移動販売

・津軽地域の郷土料理や食文化の継承・普及　等

12 月 9 日には、会長の田中恵津子氏、副会長の佐藤イネ子氏、事務局で店長の前田晴香氏が宮下知事に受賞の報告し、知事は、「青森県から全国に誇れる取組を発信してくれて感謝する。これからも周りの人々を元気にする取組を続けてほしい。」と話した。

（受賞年月日　令和６年 11 月 23 日）

左：表彰式の様子

下：知事への受賞報告

左から、佐藤副会長、宮下知事、田中会長、前田店長、成田農林水産部長

表彰	受賞	受賞者	市町
令和６年産あおもりの旨い米グランプリ	「青天の霹靂」の部グランプリ	原田　繁福	五所川原市
	「はれわたり」の部グランプリ	柳原　範子	五所川原市
	「まっしぐら」の部グランプリ	佐々木　昭寿	つがる市
	「まっしぐら」の部準グランプリ	葛西　拓美	つがる市

＜内容＞

五所川原市 原田繁福氏が「青天の霹靂」の部でグランプリ、五所川原市 柳原範子氏が「はれわたり」の部でグランプリ、つがる市 佐々木昭寿氏が「まっしぐら」の部でグランプリ、つがる市 葛西拓美氏が準グランプリを獲得した。原田氏は「青天の霹靂」の地区生育観測ほ、佐々木氏は「まっしぐら」の県生育観測ほを担当している。

原田氏は稲わらのすき込みによる土づくり、柳原氏と佐々木氏は登熟後期までの入水による根の活力維持、葛西氏は堆肥等投入による土づくりに努めるなど、きめ細やかな栽培管理による良食味・高品質米生産を心がけている。

（受賞年月日　令和６年 12 月 19 日）

手前左から柳原範子氏（代理受賞）、宮下知事、原田繁福氏、佐々木昭寿氏、奥右が葛西拓美氏

２　新規認定者

（１）農業経営士・青年農業士

西北管内から新たに農業経営士３名、青年農業士８名が認定された。

＜農業経営士＞

氏　名　　小野　修身
住　所　　五所川原
主な経営　　水稲、大豆

氏　名　　野呂　淳悦
住　所　　つがる市
主な経営　　水稲、すいか

氏　名　　七戸　真吾
住　所　　つがる市
主な経営　　りんご

＜青年農業士＞

氏　名　蒔田　祥平
住　所　五所川原市
主な経営　りんご

氏　名　川浪　剛功
住　所　五所川原市
主な経営　水稲

氏　名　杉野森　洋行
住　所　つがる市
主な経営　りんご

氏　名　奈良　竜之
住　所　つがる市
主な経営　ミニトマト、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、大豆

氏　名　川添　光
住　所　つがる市
主な経営　水稲、大豆

氏　名　坂本　新
住　所　つがる市
主な経営　ﾒﾛﾝ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ

氏　名　神　隆紀
住　所　つがる市
主な経営　りんご、水稲

氏　名　小山　朋洋
住　所　鰺ヶ沢町
主な経営　りんご、水稲、大豆

（２）ＶｉＣ・ウーマン

西北管内から新たに１名のＶｉＣ・ウーマンが認定された。

氏　名　　白川　美（しらかわあゆむ）
住　所　　五所川原市
主な所属団体　金木観光物産館「産直メロス」出荷者友の会
　　ＮＰＯ法人かなぎ元気倶楽部

Ⅶ　その他の活動

１　物価高騰対応「スマート農業機械」導入促進事業（県単：令和６年度）

（１）目　　的

物価高騰に対応し、本県に適した農業ＤＸを実現していくことで、経営の維持・発展に取り組む農業者を支援する。

（２）事業内容

農業者を対象にスマート農業機械等の導入に要する経費を補助（補助率：1/2）

（３）概　　略

西北地域では、要望が 216 件あり、そのうち 160 件(補助金額 902,672 千円）が採択された。

表１　西北地域の品目別の採択状況

（単位：件、千円）

品目	件数	補助金額	主な導入機械
土地利用型作物	135	775,882	自動操舵機能付きトラクター、 自動操舵機能付き田植機、 食味センサー付きコンバイン等
果樹	25	126,790	キャビン付きスピードスプレーヤ
合計	160	902,672	

２　農林水産関連物価高騰等対策事業（県単：令和５年度繰越分）

（１）目　　的

新型コロナウィルス感染症の感染拡大の長期化や原油をはじめとしたエネルギー・原材料価格の高騰等に対応し、経営継続・発展に取り組む農林水産事業者を支援するため、施設等の更新や改修、施設園芸資材の導入により、経営の継続・発展に取り組む農林水産事業者を緊急的に支援する。

（２）事業内容

スマート農業機械の導入など９つのメニューにより、農林水産業に係る機械、設備などの導入に要する経費を補助（補助率：1/2）

（３）概　　略

令和５年度に事業採択となった 222 件のうち、令和５年度内に 179 件（補助金額 771,535 千円）が完了し、交付要綱に基づき、事業実施者から提出があった成果報告書を取りまとめ、７月末に県庁各担当課へ報告した。

令和６年度に繰越し手続きを行った 43 件（補助金額 360,054 千円）については、全て確定となった。

Ⅷ　参考資料

１　西北地域農業の概要

（１）地域の広がり

西北地域は青森県の北西部に位置し、県人口第６位の五所川原市、第９位のつがる市、西津軽郡の鰺ヶ沢町と深浦町、北津軽郡の板柳町、鶴田町、中泊町の２市５町から構成される。

（２）地勢

地域の西側は日本海に面する海岸段丘となっており、七里長浜沿いに屏風山砂丘が発達している。そこから東に、岩木山や世界自然遺産の白神山地へ連なる山地、また、広大な津軽平野が展開している。

津軽平野の中央を流れる一級河川岩木川は、左岸のつがる市と西津軽郡、右岸の五所川原市と北津軽郡を分け、約１万 ha の水田を潤している。

（３）気候

夏季は内陸型の気候で高温多湿となり、比較的温暖なものの、北部では「ヤマセ」の影響を受け低温となることがある。

冬季は豪雪で日本海からの強い偏西風の影響を受け、地域によっては雪が舞い上がって吹き荒れる「地吹雪」が発生する。

五所川原市の年平均気温は 10.6℃（前平年値+0.3）、４～９月の暖候期の平均気温は 17.6℃（同+0.4）、年降水量は五所川原市で 1,280㎜（同+56）、深浦町で 1,529 ㎜（同+65）となっている。

月平均気温の平年値（アメダスの統計期間：平成３年～令和２年）

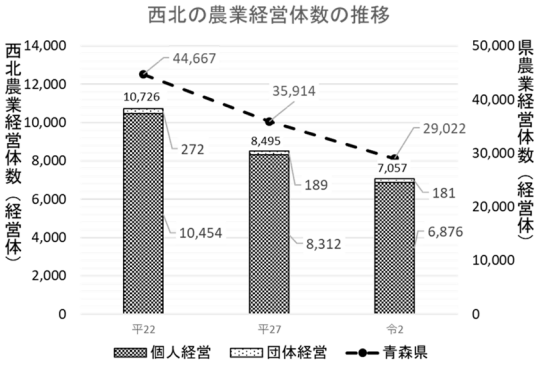
観測地点	寒候期			暖候期						寒候期			暖候期	年
	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月		
五所川原	-1.1	-0.7	2.5	8.5	14.1	18.0	22.0	23.4	19.5	13.1	6.9	1.3	17.6	10.6
市　浦	-0.6	-0.2	2.8	7.8	12.7	16.7	20.9	22.7	19.2	13.2	7.2	1.8	16.7	10.3
鰺ヶ沢	-0.2	0.1	3.0	8.2	13.2	17.1	21.3	22.8	19.3	13.4	7.6	2.1	17.0	10.7
深　浦	0.0	0.3	3.2	8.5	13.5	17.5	21.7	23.2	19.5	13.6	7.9	2.4	17.3	10.9
(参)弘前	-1.5	-1.0	2.3	8.6	14.3	18.3	22.3	23.5	19.4	12.9	6.5	0.8	17.7	10.6

（４）農業経営体

ア　農業経営体数

令和２年の経営体数は 7,057 経営体で、平成 22 年の 10,726 経営体から 34%減少した。

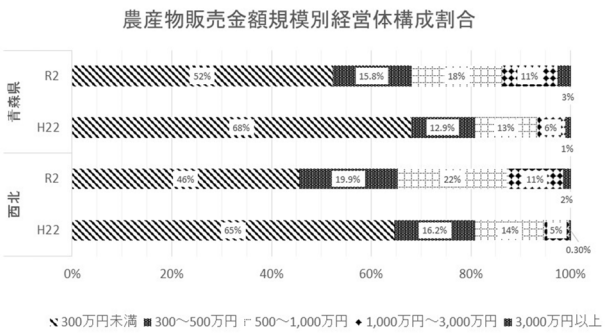
また、団体経営の比率は２％程度と横ばいである。



出典：農林業センサス

イ　販売金額規模別経営体割合

販売規模別では、令和２年は平成 22 年に比べ、500～1,000 万円が約 1.5 倍、1,000～3,000 万円の階層割合が約３倍に増加している。

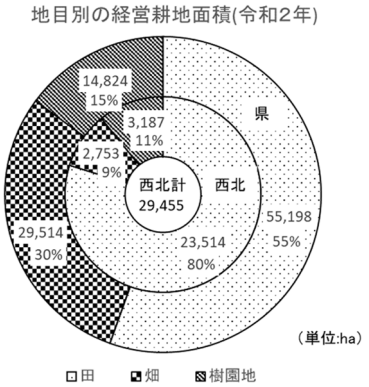


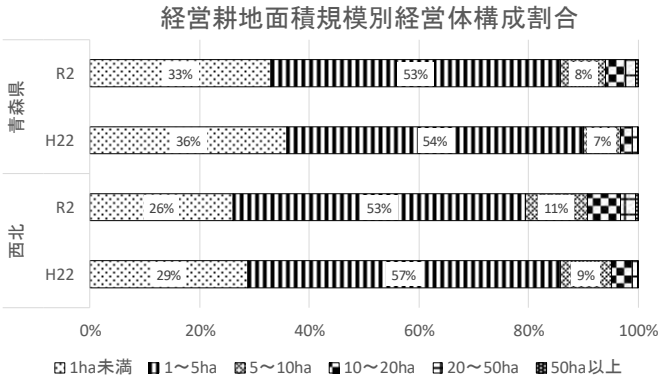
出典：農林業センサス

（５）経営耕地面積

令和２年の西北地域の経営耕地面積は 29,455ha で本県の 30%を占め、地目別では田が 23,514ha(80%)と大半で、次いで樹園地 3,187ha(11%)、畑 2,753ha(9%) となっている。

令和２年の経営耕地面積を規模別で見ると、平成 22 年に比べ、大規模化している。





出典：農林業センサス

（６）農地の集積状況

西北地域における農地の担い手への集積率は、鰺ヶ沢町、深浦町を除くと、県全体に比べて高い。

担い手の農地利用集積面積（令和６年３月末）（単位：ha、%）

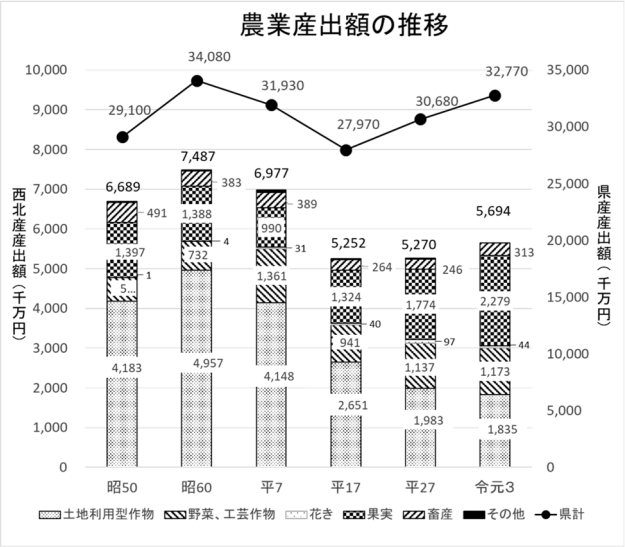
市町名	耕地面積	担い手への集積面積	担い手への集積率
五所川原市	9,260	7,090	76.6
つがる市	14,300	13,109	91.7
鰺ヶ沢町	3,250	1,714	52.8
深浦町	1,430	776	54.3
板柳町	3,020	2,086	69.1
鶴田町	2,940	2,430	82.6
中泊町	3,670	2,989	81.4
西北計	37,870	30,194	79.7
県　計	148,400	86,751	58.5

出典：農林水産省「東北管内の担い手への農地集積状況（令和６年３月末現在）」
令和６年５月東北農政局取りまとめ及び農林水産省「作物統計調査」「農林水産関係市町村別データ」のうち「耕地面積（2024 年２月 27 日公表）」の値を使用

（７）農業産出額

西北地域における令和３年の農業産出額は 569 億円で県全体の 17%を占める。作目別の県全体に占める割合は、土地利用型作物が 31%、果実が 25%、花きが 25%、野菜・工芸作物が 14%となっている。

西北地域における作目別の割合は、果実が 40%、土地利用型作物が 32%となっている。



出典：市町村別農業産出額（推計）（農林水産省）

２　作物別の生産状況

（１）水稲

管内の令和６年産水稲作付面積（子実用）は、17,589ha（前年比 642ha 増）で、県全体の約 41%。また、収穫量（子実用）は 114,520t で、県全体の約 43%を占めている。

水稲の作付面積等（令和６年産）

（単位：ha、ｔ）

市町名	作付面積	収穫量
五所川原市	4,540	30,100
つがる市	7,440	49,600
鰺ヶ沢町	707	4,370
深浦町	332	1,900
板柳町	1,070	6,700
鶴田町	1,340	8,350
中泊町	2,160	13,500
西北計	17,589	114,520
県　計	42,400	264,200

出典:「令和６年産水稲の市町村別収穫量」(農林水産省東北農政局 令和６年 12 月 20 日公表)

収穫前の風景

（２）畑作物

大豆、小麦が転作作物として作付けされており、令和５年産の大豆作付面積は 3,427ha で前年より 305ha 増加し、全県の約６割を占め、小麦は 348ha で 34 ha増加し、全県の約４割を占めている。

大豆・小麦の作付面積等（令和５年産）

（単位：ha）

市町名	大豆	小麦
五所川原市	581	149
つがる市	1,400	143
鰺ヶ沢町	525	56
深浦町	123	－
板柳町	191	－
鶴田町	150	－
中泊町	457	－
西北計	3,427	348
県　計	5,530	801

出典：作物統計調査「令和５年産市町村別データ」

（麦類令和６年３月 29 日、大豆令和６年５月 21 日公表）

大豆の収穫作業

（３）野菜

つがる市から鰺ヶ沢町にかけての屏風山地域では、メロン、すいか、つがる市北部の屏風山開畑地域では、ねぎ、だいこん、ながいも、にんにく等、西海岸地域では、だいこん、ばれいしょ、にんじん、アスパラガス等、津軽平野北部地域では、夏秋トマト、ブロッコリー等、それぞれ大規模な産地が形成されている。

「夏秋トマト」、「夏ねぎ」、「秋冬ねぎ」、「ばれいしょ」は産地指定されている。

一方、近年、担い手の高齢化に伴って「夏秋トマト」等の作付が減少している。

水田での高収益作物として「ブロッコリー」の作付が推進され、津軽北部地域で増加傾向である。

野菜の作付面積（西北地域）　（単位：ha）

トマト	ﾐﾆﾄﾏﾄ	きゅうり	メロン	すいか	ねぎ	ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ
44.6	11.0	5.2	234.0	162.2	55.2	57.6
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ながいも	にんにく	だいこん	にんじん	ごぼう	ばれいしょ
44.2	39.5	74.5	75.1	46.9	35.0	12.2

出典：令和５年産野菜作付面積調査（農産園芸課）

（４）果樹

令和６年のりんごの栽培面積は 約 3,940ha で県全体の 19.6%となっている。

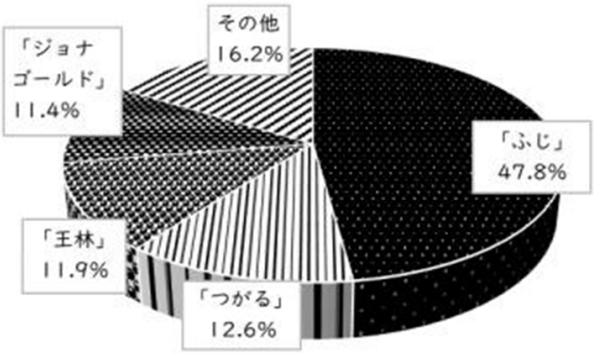
品種構成は、「ふじ」が 48%で最も多く、次いで「つがる」、「王林」、「ジョナゴールド」の順となっている。

ぶどうの栽培面積は約 118ha で、鶴田町を中心に栽培されている。品種構成では「スチューベン」が 92.5%を占めている。また、近年、管内各地で「シャインマスカット」が作付けされている。

りんごの栽培面積（西北地域）　（単位：ha、%）

全体	ふじ	つがる	王林	ｼﾞｮﾅｺﾞｰﾙﾄﾞ	その他		合計
						トキ	
	1,885.2	497.7	470.3	450.2	636.5	67.1	3,939.9
うちわい化	350.0	108.3	71.7	84.7	331.8	30.6	964.4
わい化率	18.6	21.8	15.2	18.8	52.1	45.6	24.0

出典：令和６年りんご栽培面積実態調査結果（属人）※端数処理のため合計は一致しない。



西北地域りんご栽培面積構成

五所川原市発祥のりんご黄色品種「トキ」

ぶどうの栽培面積（西北地域）　（単位：ha、%）

品種名	ｽﾁｭｰﾍﾞﾝ	ｼｬｲﾝﾏｽｶｯﾄ	ｷｬﾝﾍﾞﾙｱｰﾘｰ	ﾅｲｱｶﾞﾗ	その他	合計
栽培面積	109.1	4.8	2.0	0.7	1.3	117.9
構成比	92.5	4.1	1.7	0.6	1.1	100

出典：令和４年産特産果樹生産動態等調査結果　※端数処理のため合計は一致しない。

主力品種である「スチューベン」

作付けが増えている「シャインマスカット」

（５）花き

管内の花きは、輪ギクをはじめとするキク類、トルコギキョウを中心に、宿根カスミソウ、デルフィニウム、ハボタン等様々な品目が生産されており、作付面積はやや減少傾向にあるものの、出荷額は２億３千万円と維持している。

ごしょつがる農協は輪ギク、つがるにしきた農協ではトルコギキョウや宿根カスミソウを中心とした洋花が生産され、市場評価が高い。

中心品目のトルコギキョウ

中泊町、五所川原市金木地区及びつがる市ではデルフィニウムの県育成品種「スピアーシリーズ」を５月～11月に長期間出荷しており、県内における産地となっている。

また、葉ボタン、ストック、グラジオラス等、多様な品目が栽培され、市場の評価も高い産地となっている。

花きの作付面積（西北地域）

作付面積	16.2ha
主な作付品目	キク、トルコギキョウ、シクラメン、宿根カスミソウ、デルフィニウム

出典：令和５年農産園芸課調査

（６）畜産

管内の畜産は、各畜種とも県南地方に比べ飼養頭数は少ないものの、肉用牛、乳用牛、豚、馬、肉用鶏などの畜種が地域ごとにまとまっているのが特徴である。

肉用牛では、五所川原市以北の山間地帯やつがる市、深浦町を中心とした中山間地帯に設置された８か所、約 900ha の公共牧場を利用した夏山冬里方式による黒毛和種の繁殖経営が多く、つがる市の平野部では、乳用種主体の肥育経営も盛んである。

公共牧場での放牧風景
（つがる市　屏風山牧野）

酪農では、鰺ヶ沢町にチーズ加工施設を持つ経営体がある。

また、五所川原市には県内最大の肉用馬の肥育農場があるほか、フランス鴨の飼養も行われている。

養豚の戸数は少ないものの、つがる市には大規模な養豚場がある。

配合飼料や原油・原材料価格の高騰により生産費が上昇しているが、公共牧場や飼料用米、ホールクロップサイレージや稲わらなどの飼料資源を有効に利用した低コスト生産が行われている。

（７）水稲・大豆・小麦の採種

ア　課 題 名　　水稲・大豆・小麦種子の安定生産

イ　指導対象　　（農）木造水稲採種組合(水稲)、木造大豆採種組合(大豆)、出来島種子生産組合(小麦、大豆)、木造畑作物種子組合(小麦、大豆)

ウ　ね ら い　　主要農産物である水稲、大豆及び小麦の優良な種子を供給するため、栽培講習会等により良品質種子生産を支援するとともに、生産ほ場及び生産物の検査を行う。

エ　活動結果

（ア）講習会、検査等の開催状況

作物名	栽培講習会	ほ場検査	生物検査（発芽試験）
水稲	３回	２回	４回
大豆	２回	３回	５回
小麦	２回	２回	４回

小麦のほ場検査（糊熟期）

（イ）検査結果

＜原種＞　　（単位：ha、kg、%）

作物	品種	ほ場検査				生産物検査			
		設置面積	適合面積	適合率	不適合理由	検査数量	適合数量	適合率	不適合理由
水稲	まっしぐら	1.23	1.23	100	－	5,400	5,400	100	－
大豆	おおすず	6.46	6.46	100	－	10,260	10,260	100	－
小麦	ネバリゴシ	1.43	1.43	100	－	5,880	5,880	100	－
	キタカミコムギ	1.20	1.20	100	－	4,800	4,800	100	－
	計	2.63	2.63	－	－	10,680	10,680	－	－

＜一般種子＞　　（単位：ha、kg、%）

作物	品種	ほ場検査				生産物検査			
		設置面積	適合面積	適合率	不適合理由	検査数量	適合数量	適合率	不適合理由
水稲	まっしぐら	99.63	99.63	100	－	522,000	522,000	100	－
	あかりもち	3.87	3.87	100	－	14,000	14,000	100	－
	計	103.5	103.5	－	－	536,000	536,000	－	－
大豆	おおすず	64.91	64.91	100	－	86,190	86,190	100	－
小麦	ネバリゴシ	12.53	12.53	100	－	38,040	38,040	100	－
	キタカミコムギ	12.50	11.20	89.6	生育不良	35,910	35,910	100	－
	計	25.03	23.73	－	－	73,950	73,950	－	－

３　西北地域農林業主要指標

区分				単位	年次	西北	県	西北割合	資料
農林業経営体				経営体	R2	7,071	29,139	24.3	センサス
	農業経営体			経営体	R2	7,057	29,022	24.3	センサス
		個人経営体		経営体	R2	6,876	28,232	24.4	センサス
		主副業別	主業経営体	経営体	R2	3,132	11,604	27.0	センサス
			準主業経営体	経営体	R2	765	3,313	23.1	センサス
			副業的経営体	経営体	R2	2,979	13,315	22.4	センサス
		団体経営体		経営体	R2	181	790	22.9	センサス
			法人経営体	経営体	R2	53	117	45.3	センサス
	林業経営体			経営体	R2	14	117	12.0	センサス
基幹的農業従事者				人	R2	11,957	48,083	24.9	センサス
	平均年齢			歳	R2	64.7	65.4	98.9	センサス
雇用者数（実人数）				人	R2	17,153	69,012	24.9	センサス
認定農業者数				経営体	R4	3,216	8,891	36.2	県構造政策課
新規就農者数				人	R5	29	286	10.1	県構造政策課
耕地面積				ha	R5	37,870	148,400	25.5	農林水産統計
	田			ha	R5	27,853	78,100	35.7	農林水産統計
	畑			ha	R5	9,979	70,300	14.2	農林水産統計
水稲	面積			ha	R5	16,947	40,500	41.8	農林水産統計
	収穫量			ha	R5	110,020	248,700	44.2	農林水産統計
りんご	面積			ha	R5	3,967	20,161	19.7	県りんご果樹課
野菜	面積			ha	R5	948	8,779	10.8	農林水産統計
乳用牛				頭	R5	70	12,400	0.6	県畜産課
肉用牛				頭	R5	4,800	57,100	8.4	県畜産課
豚				頭	R5	30,900	356,300	8.7	県畜産課
採卵鶏				千羽	R5	160.7	5,393	3.0	県畜産課
肉養鶏				千羽	R5	4.5	6,095	0.1	県畜産課
農業産出額				億円	R4	548	3,168	17.3	農林水産統計
	主要作物	米		億円	R4	174	405	42.9	農林水産統計
		野菜		億円	R4	104	657	15.8	農林水産統計
		果実		億円	R4	218	1,051	20.8	農林水産統計
		畜産		億円	R4	34	979	3.4	農林水産統計